第１回セッション 「夏」

どきどきの初漂流。

まずはシンプルお題でスタート。

投票結果、上位作品とそれへの島民コメント、
村長＝山室による全作品コメントの順にご紹介します。

テーマ：夏

投票総数：246件

順位	ポイント	投票数	作品タイトル	作成者	作者コメント	コメント数	最新投稿時間
1位	47	23	２杯目の歓び	神代千早	有	23	8/28 21:36
2位	37	15	ニシキカムロ	春	有	22	8/26 6:0
3位	33	18	音感に関する三つの実験	白磁	有	27	8/26 5:43
4位	27	14	18の娘	BRAZIL	有	23	8/26 3:23
5位	23	14	冷たい甲子園	laket	有	26	8/26 5:58
	18	11	冬虫夏草（トウチュウカソウ）	黒眉	有	24	8/26 0:54
	17	8	ミーン　ミーン　ミーン	evolv	有	14	8/26 22:30
	15	11	もうイヤ	浅間ぱんだ	有	20	8/25 18:16
	14	7	焼け付くような日差しの中で見た	葉月	有	18	8/26 5:49
	13	10	真夏にはビールとビキニ、それから少しだけの拳銃を	greenbard	無	25	8/26 1:59
	13	7	青春、朱夏、白秋、玄冬	s.o.u.p.	有	21	8/25 23:57
	12	8	輝ける季節	やまのかめさん	有	19	8/29 9:9
	10	6	――――――　AM　04：58	バケネコ	有	13	8/26 0:45
	10	6	線香	bfs（ぱんつ）	有	16	8/25 23:24
	9	5	登る少年	ノア	有	18	8/25 23:40
	8	6	「日本の夏」で、初めて私は「女」になった	それから	有	20	8/28 12:47
	8	5	怪談かもね	to　洋灯	有	15	8/25 23:55

8	5	一服の清涼剤	石花	有	17	8/25 21:25
6	4	夏の記憶	SOta	有	13	8/25 22:3
6	5	サザン・クリスマス	floccinaucinihilipilification	有	15	8/29 22:40
6	3	雲の向こうは	カエデ	有	11	8/25 13:53
6	3	果たしてぼくに夏は来るのだろうか	ロックン	有	11	8/26 7:29
6	4	夏が壊れていく	弟子	無	18	8/26 1:2
6	5	音のない世界	aya	有	18	8/26 0:21
6	4	避暑地での過ごし方	うさぎとかめ	有	14	9/3 2:47
5	4	The Autumn Song	あずな	無	13	8/26 1:43
5	4	7月20日の朝	katz	無	14	8/26 0:7
4	2	夏と夢と後悔と	kate	有	13	8/25 22:38
4	4	僕の夏休み～夏の終わり編～	太祖武帝	有	18	8/26 5:49
4	4	鬼譚	ニャルラトホテップ	有	13	8/26 0:12
4	3	I wanna...	BELIAL	有	14	8/26 5:55
4	2	夏	未草	有	14	8/26 0:58
3	2	一昔前のマンガ月刊少年誌の10月号あたりをみると感じるアレ	カゲヤマ	有	14	8/26 0:22
3	2	風物詩	ひま人	有	13	8/26 17:3
2	2	探し物	halcyon	有	11	8/25 22:58
2	2	大嫌いな夏	no price	無	13	8/26 0:2
2	2	夏の日	パンリコ	有	14	8/26 5:46
2	2	「lost」失ったものの辿る道。	森　武	有	15	8/25 6:33
2	2	熱帯夜	カッシーニの空隙	有	10	8/24 12:59
2	1	限られたモノ	EtOH	有	11	8/26 0:26
1	1	～チャラ☆のひと夏の想い出～	箒	有	13	8/25 20:5
0	0	なつ　夏　ナツ　　おまけで　Natu	柚子(ゆうこ)	有	10	8/25 18:39

0	0	白浜@南伊豆	みーちゃん	有	14	8/26 5:56
0	0	背筋の凍る思い	Albino（ウツボット）	有	11	8/25 4:49
0	0	あの夏の花火	sinamo	無	10	8/25 21:40
0	0	イライラの夏	八剣	有	11	8/25 22:22

２杯目の歓び

総合順位：1位
合計ポイント：47 Point
作者：神代千早
作者コメントを読む

「暑いだろう？」
　スペイン南部、バレンシアの片田舎の日差しは確かに容赦ない。けれども東京の湿気混じりの猛暑に比べればまだ過ごしやすいと言える。だが、それを想像してもらうのも気が引けて、僕はあいまいに微笑んだ。
「ここのところヨーロッパは猛暑が多くてね。ブドウは暑い盛りに熟し過ぎると果実味が失われてしまう。こういうときは収穫時期が難しいんだ」
エウゲニオはそうつぶやいた。
「有効積算温度を使えばいいのでは？」
僕はそう尋ねた。ワイン新興の地、アメリカで開発された合理的な手法。基準を超えた温度を毎日足し合わせていき、ブドウの熟れ具合を見積もる方法である。気温だけに由来する、システマティックで合理的な方法だ。するとエウゲニオは宇宙人でも見かけたかのように僕を見つめ、
「お前は技術者か、それとも生産者か？」
と問い返した。
　確かに農学部ではブドウの生育条件を制御する様々な方法について学んだし、醸造過程の微生物学的管理方法も習得した。そういう意味では僕は技術者なのかもしれない。だがしかし、彼のその問いかけにそう答えたくはなかった。だから少し考えた挙句、
「生産者になりたいんだと思う」
やっとそう答えた。
「だったらここで得るものは大して多くはない。技術を知っているなら日本に帰って自分の畑を持ち、自分のブドウをよく観察するんだね」
彼はブドウの樹からもれる日差しを仰ぎ見ながら、少々つっけんどんに言い放った。僕は少し気分を害して言い返す。
「そのためには成功している現場を観察して、その土地に秘められたポテンシャルを知るのは悪いことではないでしょう？」
「色々知ることは悪くはないさ。けどな、ブドウは人が作るんだ。その昔、ワインの質は土地が決めるとフランス人が主張した。醸造技術が発達したら技術が味を決めるとドイツ人が言った。それからブドウの品種を土地に合わせてやれば、成功間違いなしとアメリカ人が宣伝した。だが、新興ワイン産地が世界中に勃興している今はだ、フィロソフィーのあるワインがあちこちで生まれている。フィロソフィーはな、人なんだよ」
　その言葉を咀嚼する。僕の沈黙をどう受け取ったのか、エウゲニオは唐突にブドウを一粒つまむと、「食べてみろ」と僕によこした。
　酸味がまだ強いが、ここのところの暑さでだいぶ熟してきている。毎日食べてみれば変化もわかるのだろうか。
「ここ一週間が勝負だな。だが、そのブドウの味は俺のものだ。お前は自分の国で、うまいブドウを見つけるんだよ。そして自分のフィロソフィーを表現するための醸造を試すんだ。生産者ならそうするもんだ」
　僕は、銘醸品を生み出す土地の環境を日本に移そうと考えていた。だが彼は、土地に合った作品を作り出す

ことを考えている。たぶんそれがフィロソフィーなのだろう。
「なるほど、それでは僕は日本で君のワインよりうまいワインを作る努力をしないといけないわけだ」
「それはどうかな。俺がうまいワインを作る。お前もうまいワインを作る。その方が優劣をつけるより幸せだろう？」
豪快な笑い声とともにエウゲニオは言った。そして彼は言葉を続けた。
「よいワインとはどんなワインか知っているか？」
　色、芳香、酸味、深み、様々な要素が頭をよぎったが、それらは一要素でしかないだろう。教えてもらえないだろうか、僕は素直にそう尋ねた。
　すると彼はいたずらっぽい表情でこう言った。
「『もう一杯』と言わせるワインさ」
たぶん、この単純でかつ奥深い言葉を聴くためだけにだって、バレンシアまで来た価値がある。僕は彼の肩を強くたたき、この男に２杯目を飲ませるワインを作ることを心に誓った。

作品印刷　　コメント印刷
作品に対するコメントを下さい。
コメント登録

投稿者	コメント
s.o.u.p. 8/18 15:35	もう一杯。
halcyon 8/18 19:20	タイトルと内容がきっちりあっていて良いですね。
石花 8/18 22:17	もう一杯。
太祖武帝 8/18 22:51	夏のイメージに合いますね！いかにもワインが欲しくなる文章ですね！
evolv 8/18 23:19	ワインは常に調味料代わりなんでごめんなさい。 ワインをあんまり飲めない私はついついもらい物とかも料理に使ってしまうんですよね。 でも文章からワインってこういうのが似合っていいですよね。
柚子(ゆうこ　です) 8/19 19:35	「夏」という語を一回も使わずにしっかり夏を感じ、その思いまで、分かりました。素晴らしいです。
黒眉 8/19 22:41	会話のテンポが凄く良くて、作品に吸い込まれていくようでした。ワインは余り飲めないのですが、この話を読むと飲みたくなってしまいます。 　「」の末尾に句点を付けていない所など、文章に対する細かい気配りが見えてよかったです。漢字も多すぎず少なすぎず、きっと丁寧に調整したのでしょう、読みやすかったです。
箒 8/20 18:35	ワインて考えてみれば神秘的ですよね。収穫時期によっても、保存方法や期間によっても変化していくんだから・・『もう一杯』と言わせるワイン飲みたいです。
バケネコ 8/20 21:6	かっこいい！ 専門用語が頻出するわりに読みやすく、むしろそれが雰囲気を醸し出していて、とても楽しく読めました。 いやほんとかっこいい！ なのでとりあえずワイン買ってきます。
BELIAL 8/21 16:52	私はお酒が飲めない人なんですが、このフレーズには納得がいきますね。 もう一度飲みたくなる。当たり前だけど、一番重要なこと。
森　武 8/21 18:5	農学が余り得意ではない僕には途中まで、ちょっときつかったですが、「もう一杯」のフレーズにはなるほどと思いました。暑い夏らしいイメージも出てきていていいと思います。

qofhk 8/22 17:8	読みやすく、内容も作者が実際に体験したかのように感じました。
EtOH 8/24 4:26	タイトルと内容がぴったりでしたね。いや、ほんと「もう一杯」。 内容が、薄っぺらくなくて、ワインについての話とか・・・。 うん、すごいです。 エウゲニオ、いいやつですね。なんか生産者！って感じ。（職人って感じ？）　かっこいい。。。
ぷろじぇくと D 8/24 22:30	文章に渋みが足りないです。あと、バレンシアってスペインの真ん中東側ですよ。 ブドウの生育の話は面白いけど、ワインへの愛をあまり感じられなかったかなぁ。
やまのかめさん 8/24 23:34	当たり前ではありすぎない話題、それでいて単なる説明では終わらない文章、やや説明調に傾いてはいますが、よく書けていると思います。最後まで興味深く読むことができました。個人的には、もう少し台詞を減らして語り手による語りでまとめてくれた方が、すっきりして読みやすくなるのではないかなとは思いました。
BRAZIL 8/25 19:28	「お前は技術者か、それとも生産者か？」、東工大生ならばほとんどの人が、「技術者だ」と答える。 だから、私は、生産者の立場で書かれたこの作品に興味を惹きつけられました。 ただ、エウゲニオは生産者というよりも技術者の両方を兼ね備えているように感じます。
bfs 8/25 20:6	確かに地中海、葡萄ってのは夏とリンクするなあ。内容も興味深くて面白い。 ただ、インデントだけはきちんとして欲しかったかな。なんでこんな中途半端なんだ。何かルールでもあるのか。 # 科学ってのはあくまで一般化を目指すから、土地に根付いた生産をやりたいのなら大まかな理論に頼るよりもその土地でトライアルアンドエラーを続けたほうが理にかなってるのかな、とか考えた俺はエウゲニオさんとワインを飲み交わせそうにないです。
あずな 8/26 0:15	夏はビールという私の先入観をみごとに打ち飲めす一杯でした。 私のワインの知識は「もやしもん」のフランス編のみ。どうやってこういう知識を人に伝えるレベルまでもってこれるのでしょうか。関心感心。
葉月 8/26 1:8	かっこよすぎるエウゲニオ。これはいいなあ。文章のうまさとかきれいさとか、そういう次元を少し飛び越えたところに、作品のよさがある。うらやましい。 で、地の分も過不足ないどころが、かなりうまいほうだと思います。総じて高いレベル。面白かったです。もう一杯。
ノア 8/26 1:52	コラムらしいコラムっていう作品が少ない中、これはとてもしっかりしたコラムだと思いました。
aya 8/26 5:44	どこがどういいのかうまく言えませんが、印象に残る作品でした。あとでもう一度読みたくなるような。 まさに「もう一杯」？
ことり 8/26 5:52	『もう一杯』と言わせるワイン。いい表現ですね。 ワインについて学ばせてもらったような気持ちにもなりました。
bfs 8/28 21:36	ああ、言われてみれば確かに。＞インデント 確かに理屈で考えるとそっちが正しいですけど、ぱっと見の違和感がどうしても抜けないので俺は入れたほうが好きですね。 まあ、好みの問題ってことで。失礼しました。

ＴＯＰへ

ニシキカムロ

総合順位：2位
合計ポイント：37 Point
作者：春
作者コメントを読む

右を向けばジャガバター、たこ焼き、焼そば。
左を向けばわたあめ、リンゴ飴、クレープ。

どれも煌々と明かりを灯し、道行く人々をおいでおいでと手招きする。その手招きに勇太も誘われた。
クレープの屋台の前で少し潤んだ目で私を見上げる。仕方ないなぁ、今日は特別だぞ、と財布を取り出す。だが、そんな様子の息子を見るのは何だか久しぶりな気がした。

今日は花火大会だ。

「美味しいか？」
「うん！」勇太はクリームを口の周りにつけながら笑う。
連れて来て良かった。本当にそう思った。

縁日は活気に満ちていた。
何か面白そうな物は無いかな、と周りを見渡すと一軒の屋台が目に入った。
「よし、あそこに行ってみようか」
私は勇太の手を引いた。

「二回いいかな」
「あいよ、二百円ね」
お店の人からポイとカップを二つずつ渡される。
勇太はそれの一つを受け取ったはいいものの、掬いはじめようとせずに、私の顔と水の中の金魚を交互に見ながら戸惑っていた。
「それで金魚を掬うんだよ」
「金魚……」
促されて、おそるおそるポイを水槽の中へと差し込む。だが、水の中に差し込んだまま金魚を追いかけたため、紙はすぐに破けてしまった。
「いいかちょっと見てなさい。こうやるんだ」
「うん」
私は水面近くでじっと止まっている金魚に狙いを定め、その頭側から金魚の下へとポイを差し入れ、一気に掬い上げる。
「よっ、と……なっ」
私はカップの中の金魚を見せ付ける。
「すげぇ！」

金魚は広い水槽から小さなカップに移されたことに戸惑うようにくるくると回っていた。
勇太は自分の空のカップと私のカップを見比べる。それがあまりにも悔しそうなので私はつい笑ってしまった。勇太はそんな私を見てプイとそっぽを向いてしまった。
私は店の人に一声かけ、新しいポイを貰う。
「じゃ、次は頑張れよ」
私がそう言って新しいポイを差し出すと、勇太は一瞬ポカンとした顔を見せ、
「父ちゃんよりでっかいの掬うから！」
そして真剣な目で水槽を覗き込んだ。

ドーン

西の空に花が咲く、そして一拍置いた後、衝撃。
私と勇太は並んでそれを見上げる。その小さな手には私が掬った小さな金魚のビニールが握られている。

「父ちゃん、綺麗だね」
様々な花火が夜空を彩る。

ドーン

一般的な菊先、線を引かず点で世界を彩る牡丹。
火の粉を舞い散らせながら上空へと上って行く虎の尾。
葉落、青蜂、やし、銀波先、そして星、環などの様々な型物。

ドーン

脇から聞こえる、わぁという声。

ドーン

夏を音で感じる。

どれだけの時間が経ったのだろう。時計を見るともう終わりの時間だった。

気づくと、世界は静寂に包まれていた。

「終わっちゃったね」

寂しそうな声。

「母ちゃんにも見せたかったな……」そうポツリと呟いた。

そのときだ。

ヒューン　ヒューン　ヒューン

夜空を埋める巨大な花々。
今までのように一瞬では消えず、夜空に長い間残り続ける花火――錦冠だった。
声も無く夜空を埋め尽くす光を見つめる私たち。

大丈夫さ、そう私は呟く。

母さんはお前が心配で仕方が無くて、いつも空の上から見下ろしてるんだ。

だから、今のだってちゃんと見ていたさ。

花火大会の帰り道。コンビニで小さな花火セットを買った。公園で小さなロウソクを立てた。

そして私は線香花火に火をつける。
先が丸まり火の玉となり、控えめな火花を散らす。

ロウソクの火がゆらゆらと揺れる、少し風が強い。
私は手で風を遮り、小さな火の玉を大事に守る。

勇太は花火を手に持ち、楽しそうに走り回っている。

約束したように、この子の幸せだけは必ず守り抜くから。
だから、お前もこの子のことちゃんと見守ってやっててくれよ。
そう、私は呟く。

空を見上げる。

少し風が弱まった気がした。

作品印刷　　コメント印刷
作品に対するコメントを下さい。
コメント登録

投稿者	コメント
カゲヤマ 8/18 21:45	純粋だっ！ある意味正統派。こんな美しい夏を覚えておきたいものだ。
太祖武帝 8/18 23:20	展開は作品の最初の方で大体の見当はつきましたが…正統派も捨てたもんじゃありませんね！素朴なこんな感じの作品もいいですね！
ザ サン・オブ・オージー 8/18 23:35	金魚すくいと花火の描写だけで心が揺れました。うまいと思います。 最後の線香花火のシーンなんかもよく伝わります。
evolv 8/18 23:45	すらすらとした描写が読みやすく、文章のさわやかさを際立たせていました。縁日の描写が好きです。今年は行けなかったな～
あずな 8/19 16:12	じつに夏らしく、読みやすかったです。 なんか、「いま会いにいきます」みたいな。
BELIAL 8/20 1:56	色々なものが詰まっている夏祭り。 この作品で、それらが一度に体験できたような気分です。 しっかりストーリーも組まれていて、すんなり読めてしまいました。

greenbard 8/20 12:27	きれいだなーって思います。「夏」というお題に対してここまで誠実に応えているというのがすばらしいと思います。 ただ、花火を見た後に花火セットを楽しむのは、ずいぶんもりだくさんだなーって思いました。お祭りの描写、花火の描写だけでも充分、物語としての舞台は整っているのだから、最後の独白は花火セット抜きでもよかったのかな、と思います。線香花火の静けさも悪くはないですけどね。「花火大会の帰り道。コンビニで小さな花火セットを買った」というところで一瞬、文章のリズムが途切れたように感じました。
バケネコ 8/20 14:56	ストレートど真ん中剛速球なのに、なぜかデッドボールで胸が痛いです。これは、これは僕には書けないっす。 しかしそんなストレートなあらすじの一方、『空の花火＝お母さん』とか『線香花火＝勇太』という仮託表現など、文章の方には結構たくさんの小細工しかけてあるところに、ただ素直なだけではない文章の巧さを感じました。
バケネコ 8/20 14:59	すみません、↑のは『線香花火＝勇太』ではなく『ロウソクの火＝勇太』でしたね、訂正です。
me 8/20 20:33	すごいきれいな話ですね！ 出店のワクワク感が出てる始まり方から結構惹かれました。 情景がイメージしやすくていいですね。
EtOH 8/21 4:56	いいですっ！祭りの雰囲気がちゃんとでているところがっ！花火の知識がちょいちょい出てるけどそれが不自然だったり邪魔だったりしないところがっ！ ん～こんな正統派を書いてみたいものだ。。。
森　武 8/21 17:49	とても好きです。ただ、タイトルの『ニシキカムロ』の意味が分かりませんでした（今は分かるけど）。意味が分かれば、とても物語が引き立てられますが、分からない人もいるんじゃないのかと思います。
白磁 8/22 0:24	うーん、私もやはり花火セットはない方が良い気が。 打ち上げ花火、もう10年くらい見てないのですが、久しぶりにあの華やかさと昂揚感を思い出しました。 今回、あっちこっちのコラムに出てた花火ですが、具体的に生き生きと描写できてた点では、この作品が一番かなと思います。
ノア 8/24 10:54	風で揺れたのはロウソクの火で、手で覆って守ったのは線香花火でしょう。 どちらかと言えば『線香花火=勇太』で合ってると思いますよ。 　打ち上げ花火では大きな錦冠(にしきかむろ)が好きです。 ぱらぱらと火を引くときに観客からおぉっと歓声がよく上がるので楽しいです。
floccinaucinihilipilification 8/24 15:4	「正統派コラム」とは自分の意見を表明するものだと思っていましたが・・・。たとえば「ガソリン税をあげるべきかどうか」について語る、など。 言うなれば「正統派物語」でしょうか。感動もの、という意味で。 内容としては、父、母、子それぞれの対応が上手いですね。文句のつけどころのない作品でした。
ひま人 8/24 23:55	夏を音で感じるっていいですね。 自分にはこんな正統派の文は書けません。。。
やまのかめさん 8/25 4:14	お祭りの描写もいいですし、花火を介しての母親や子供の描き方もいいですね。 もっともgreenbardさんが言われていますように、ずいぶんともりだくさんな印象でもあります。決してダレるというわけではないのですが、錦冠が上がる場面が大いに盛り上がる場面なので、全体のバランスとして、その後は短かくすっきりまとめられればもっとよかったのでは、と思います。 ……と思いましたが、読み返してみれば、最後の場面も決して長いわけではないんですよね。んーと、greenbardさんのコメントそのままになってしまいますが、コンビニの所で文章が途切れる印象がある、という感じかなぁ。
King Of Neet 8/25 16:40	夏らしい作品ですねー こういう親子っていいなーと思いました。
葉月 8/26 1:40	正統派ですねえ。こういう混じりけない作品は、読んでて気持ちよくなります。
ぷろじぇくと D 8/26 2:14	しみじみと読めました。この作品が一番好きじゃないかなぁ。

ことり 8/26 5:38	泣きました。マジで。 丁寧に描写されているので、すっかり作品に入り込んでしまいました。 ありがとう。 ニシキカムロ、綺麗ですよね。大好きです。
aya 8/26 6:0	お祭りの「動」からロウソクの「静」へ。流れがとても自然でとっても読みやすいと思います。描写・セリフ・改行、どれをとってもバランスがいいですよね。レベルの高い作品だと思いました。

ＴＯＰへ

音感に関する三つの実験

総合順位：3位
合計ポイント：33 Point
作者：白磁
作者コメントを読む

一

どんどんどんどどんどどん
　どんどんどんどんどどどど
　　ぱら　ぱら　ぱら　ぱら　ぱららら
　　ざざざ　ざざざ　ぱらぱら
　　どんどんどんどんどんどどど
どんどんどんどどんどどん
　どんどんどんどんどどどど
　　ぱら　ぱら　ぱら　ぱらららららら
　　どんどんどんどんどんどどど
どんどんどんどどんどどん
　どんどんどんどんどどどど
　　ぴいひゃらぴいひゃらぴいひゃらぴいひゃら
　　どんどんどんどんどんどどど

二

みいん　みいん　みいんみいんみいん
　じいじいじいじいじいじいじいじ　じ　　じ
かなかなかなかなんかなかなかなかなかなかなかなかな
　つくつくほーし　つくつくほーしつくつくほーし　つくつくほーし
みいん　みいん　みいんみいんみいん
　じいじいじいじいじいじいじいじ　じ　じ
かなかなかなかなんかなかなかなかなかなかなかなかな
　つくつくほーし　つくつくほーしつくつくほーし　つくつくほーし
ぎいぎいぎいぎいぎ　い　い　ぎ　　い　　い

　は　　た

三

ざ
ざざざん
ざざざざん
ざざざざん
ざざざざざん
ざざざざざ　ん
す　る
す　る
す　る
す　る

ざ
ざざざん
ざざざざん
ざざざざん
ざざざざざん
ざざざざざ　ん
さ　ら
さ　ら
さ　ら
さ　ら

ざ
ざざざん
ざざざざん
ざざざざん
ざざざざざん
ざざざざざ　ん
ざ
き　ら
き　ら
き　ら
き　ら

き　ら
き　ら
き　ら

作品印刷　　コメント印刷

作品に対するコメントを下さい。

コメント登録

投稿者	コメント
evolv 8/18 9:59	これいいです！レイアウトに一つ一つ楽しみがありますね。太字とかも使って花火とか表したらもっといいかなって思いました。 「かなかな・・・」 「するする・・・」 がわからなかったんですけどわかるかと教えてください。

Albino 8/18 11:54	↑はヒグラシと波が引く音…だと思った。 確かに、一で花火を入れても良かったかもしれない。
aya 8/18 18:34	すごい！音だけで夏を表現していると、思い浮かぶ情景って人それぞれですよね。その情景も、きっと読む人の記憶とか経験に由来するものだから、読んでて実感がわきやすいんじゃないでしょうか？ ネット上でこんなにレイアウトに凝れるというのも驚き。 最後の、波でしょうか？形もさることながら、「するする」「さらさら」に「きらきら」と続く。海が光を反射している様子が目に浮かびます。もっとも、これ、音じゃないですが。
halcyon 8/18 23:50	文字遊び、いいですねぇ。 音の感触とレイアウトが合ってると思います。 花火も見てみたいけど、和太鼓の音と混ざる気はする。
葉月 8/19 0:9	面白いと思いますが、漢数字が記号のように見えて、3つに分かれていると最初気づきませんでした（苦笑）。　かなすい。 発想も面白く、文章自体も好みです。こういうチャレンジ精神が好き。特に二がすごいリアルに感じました。
laket 8/19 2:8	レイアウトがすごい！ ブラウザ経由でレイアウトにこってくるとは思いませんでした。特に波がいいなぁ。
greenbard 8/19 12:6	「きらきら」が白く光る水飛沫のきらめきを彷彿させて。印象的でした。レイアウトが変わるだけで、随分、文字の持つイメェヂが変わるものですね。なるほどー。
BELIAL 8/20 2:31	あぁ、わかる。 それだけですごいです。 擬声語…っていうんですかね。便利ですねぇ…
森　武 8/20 18:33	面白いです。こういう発想は僕にはないんで、素直に思います。
me 8/20 21:15	文章じゃなくても、これだけですごく夏が伝わってくる！ 音のイメージが自分の中で視覚的なイメージになりました。
EtOH 8/21 4:43	シンプルなんですけど、レイアウトではきっとこれの右にでるものはないですね。素晴らしいです。 ぱっとみてもきれいだし、よく読むといろんな音が隠れていて面白いし。 今度書くときの参考にさせてもらいますっ！！
柚子(ゆうこ　です) 8/22 0:26	わたくしのPCでは無理ですが、一度全体を眺めてみたい。こういう表現もあったのですね、！
パーク 8/22 1:30	音を文章表現出来るものなのかぁ、と驚きました。
めんとすこーら 8/23 16:15	何を伝えたいのかがわかってきますね。こういうの好きです。 こういうのを他の言語に翻訳したらどうなるのだろう。
やまのかめさん 8/24 12:10	実験としては興味深いし試みは評価します。が、冷静に読み返す(見返す？)と、作品自体からは、それほど趣と言いますか、なにか読者として心つかまれるようななにかは感じられなかったのです。評価しろと言われたら個人的には『努力賞』な気分かなぁ。
floccinaucinihilipilification 8/24 17:35	「実験」にしてしまったのは残念に思います。 日本語ならではの面白さですね。
ひま人 8/25 0:42	もはや、文字は目に入ってきません。 レイアウトの上手さに完敗。。。
ぱきまる 8/25 0:57	とってもおもしろい！ どっかの掲示板みたいでもあるけど？
kk21 8/25 1:1	最後の「きらきら」が良いですねえ。じっと目を閉じて音を聞いていて、最後に眩しそうに眼をあけるような情景が浮かびます。でも音感に関する実験、ならば「きらきら」も音なのか…？

s.o.u.p. 8/25 2:38	自分のパソコンのディスプレイの小ささを呪うことになろうとは思いませんでした。 「三」の実験が収まりきりませんでしたよ。 でも、画面をスクロールして文字の動きを見るのも楽しいですね。「ざ」の濁点が波の泡末に見えました。 本当に音が聞こえてきそうです。
弟子 8/25 4:22	文字群
白雨 8/25 13:47	面白かったです。個人的には「は　た」がすごい好き。
bfs 8/25 14:24	三はスクロールを利用してて面白かった。 > s.o.u.p.さん （グリモンとかでいじらない限り）画面サイズ固定なのでどっちにしろ入りませんよ。
BRAZIL 8/25 19:38	作品を見たときに、やられたと思いました。 夏を音とレイアウトで表現する発想は新しいと思います。
茶目 8/25 21:50	おお、なるほど！！
八剣 8/25 22:53	作品としてみたときに、文章というより絵文字。 それならもっと凄いのがあるし。 良くも悪くも中途半端な気がします。
ことり 8/26 5:43	ものすごく音を感じます。 特に最後が「きらきら」で終わっているところが素敵です。この構成だからこそ、なおのこと「きらきら」がキラキラと光りながら響いてきます。余韻が残りますね。

ＴＯＰへ

18の娘

総合順位：4位
合計ポイント：27 Point
作者：BRAZIL
作者コメントを読む

「今日は何の日か知ってる？」
8月15日、父は今年で18になる娘に、いつものように話しかけた。

「隣のクラスの啓介くんの誕生日。」

「うん。・・・・・。
でも、ほかに何の日か知ってるかな？」
（隣のクラスの奴のことは、覚えてるのかよ）

「ん～、わかんない。」

「今日は、終戦記念日じゃん。
学校で習ったろ？」

「あ～、そうだね。」

「おじいちゃんは、戦争に行ったんだって知ってたっけ？」

「聞いたことあるけど、もうずいぶん昔のことでしょ。
でも、おじいちゃんは生きてるからいいじゃない。
・・・・。
あっ、昨日テレビで沖縄やってたんだけど、今年も海に行こうよ。」

父は、くしゃっとした顔をして娘をみた。

作品印刷　　コメント印刷

作品に対するコメントを下さい。

コメント登録

投稿者	コメント
evolv 8/18 10:8	短い文章に、深いメッセージが残されているのがわかります。もういないからいいではなくて、おじいちゃんが生きているからいいというだけで、娘の戦争への気持ちがわかります。 最後に沖縄を話題にすることにためらいのない娘の常識はずれがいまは常識となっている悲しい文章です。
Albino 8/18 11:47	現代ではそうだろうね。 人が簡単に漫画やアニメで死んでいく今、 （しかもそれがもてはやされているのだから恐ろしい） 戦争を知らないと、殺し合いなんて所詮こんなものに成り下がる。 悲しいけれど真実。短文で描ききったのはうまい。 これ、ドキッとした人、いるんじゃないか？
EtOH 8/18 15:9	正直これを読んで少しだけドキッとしました。なぜって、だって8月15日に自分は終戦記念日だということをほとんど意識せずに過ごしていたのだから・・・。 いくら人から話を聞いていても、自分が体験してないと所詮ひとごとなのかもしれませんね。それではいけないと頭ではわかっているつもりなんですけどね・・・。
halcyon 8/18 20:10	なかなか怖いですよね。 飾りが無い分えげつない、現実。
カゲヤマ 8/18 21:38	うちの父は「終戦記念日」を「敗戦記念日」に改名（？）すべきだと、口を酸っぱくして言っています。なぜなら「終戦」という出来事は、少なくとも戦後に生まれた人たちにとって戦争の残虐さを知らしめる１つの言葉にしかなっていないから。「敗戦」ならエノセントリズムを戒める効果もあるからだそうです。 戦争の記憶が薄れるのは果たして悲しいことなのかというのが父の立場で、殺し合いが劇画に成り下がることにあまり重点を置いていないんです。 私としては、戦後６３年に生きる私たちは「戦争をいかにとらえるか」を喚起させられる内容だと思いました。決して単純に戦争の風化を問題視するだけでなく…。
ザ サン・オブ・オージー 8/18 23:43	これが現実ですかね。「太平洋戦争＝歴史の１ページ」じゃダメなのにね。 さ、歴史は繰り返すんですかね？「くしゃっ」にこもる思いがどれほどかわかりませんが。
浅間ぱんだ 8/19 0:51	短くすっきりと、言いたいことが伝わってきます。 「所詮ひとごと」という言葉が、重くのしかかってきます。
laket 8/19 7:27	いや、意外とくしゃっとした顔は喜びかもしれません。 父がわずかにでも持っている戦争の傷跡を、娘は持ってないですし。
aya 8/19 21:51	「昨日テレビで沖縄やってた」という一言に重みを感じました。 この「昨日」って8月14日ですよね？いったいどういう風に「沖縄やってた」んでしょう？ リゾート地としての沖縄をやっていたのなら、終戦記念日前日に沖縄をメディアが特集(?)しているという現実を風刺しているのでしょうし、 戦争の跡地としての沖縄をやっていたのなら、それを見て沖縄に観光に行こうと思える「娘」――現代の人々が戦争に無関心であるという事実を投影していると思います。 どちらにしても空恐ろしいものを感じますね。
BELIAL 8/21 16:18	切ないなぁ…
qofhk 8/22 17:11	短いなかに風刺がしっかりつまっていて良いと思います

パンリコ 8/22 17:52	こんな短い文なのに深いメッセージが伝えられるのはすごいな、と思いました。お父さんの「くしゃっとした顔」は、自分たちが次の世代にはもう戦争を伝えられない、という複雑な思いが込められているのを感じました。リアルタイムの話だったら、このお父さんは「戦争を知らない子供たち」世代のはずですから。
bfs 8/23 21:13	いくらなんでもありきたりに過ぎないかなー、と思う。 この手の主張を小説形式で、ただ淡々と三人称視点でやられると、このことを思い出すきっかけ程度にはなるかもだけど、そこでお仕舞い。一人称で中の人の心情をしっかり書くとか、三人称でも情景を書き込むとか、それこそ本当のコラムにして具体的な主張を述べるとか、そのくらいやらないと「作品」としての意義は薄いと思う。
神代千早 8/24 12:25	この作品の意図を考えてみました。戦争体験の風化を嘆く風刺文あるいは戦争体験の風化を嘆く風刺文に共感を寄せる人をあぶり出す風刺文。後者はうがちすぎでしょうか。 戦争体験の風化に共感を寄せてそうだよね、と嘆く人たちは何を目指しているのでしょうか。もし平和の実現のためには太平洋戦争の記憶は受け継がれるべきということならば、その記憶から何を読み取るべきなのでしょう。悲惨さを忘れないということなら、現在でもそこら中で悲惨な戦闘行為が行われています。現実の問題を考えた方が良いでしょう。「忘れないこと」だけでは観念的に共感を呼ぶことはできるかもしれませんが、具体的にどうするべきという提言なのかわからないため、「自分は注意を払っていますよ」というポーズに過ぎないように思います。 戦争体験を語り継ぐことは大切なことだと思います。だが、それ自体は目的ではないということが抜けているのではないかと感じられてなりません。 これは作品への感想ではなく、コメントへの感想です。
floccinaucinihilipilification 8/24 17:16	神代千早さんの意見にとても共感しました。 一概にこの娘が悪で父が正義とも思えませんでした。 過去の戦争に興味がないからといって戦争の凄惨さを理解していないわけではないでしょうし。(全く理解していない可能性もありますが。) 少なくともここの島民の多くは、太平洋戦争を理解し、後世に伝えていこうという思いがあるかないかは分かりませんが、平和の尊さは理解しているものだと思います。
imt14 8/24 20:51	すでに自分らの親の世代も戦後生まれというのが圧倒的多数の現在、 そんなものは想像でしか語れない以上、「あったこと」を意識することなど、形式的なことにすぎないのでしょうか？ いやいや、それを忘れたときに、本当の忘却がやってくると思うのです。
ひま人 8/25 0:28	戦争の記憶はだんだん消えつつある状況をひしひし感じます。 8月15日といって、すぐに終戦を思い出す人とそうでない人の意識の違いは問題ですよね。。
弟子 8/25 5:59	風刺なり皮肉なり意味をこめた文章を書く以上、その文章は読者に影響を及ぼさなければならない。 そしてそれは「読み手よりけり」な内容であってはならないと思う。 以下引用 『お願いだからそれを空白で語ってほしくない どんなにあがいてもいいから、千の言葉で、万の感情で表してほしい 相応しくない形容詞でもいい、意図に反した感嘆符でもいい 拒絶したってかまわない、直視できなくてもかまわない どんなに読みづらくもいいから、あなた自身の言葉で聴きたかった だって、空白に語らせるなんて卑怯すぎる 自分には全く持って理解できないんだもの』
halcyon 8/25 19:49	＞弟子さん 　何処からの引用ですか？
茶目 8/25 22:59	え？終わり？っとまず思っちゃいました。 戦争を考えるより人間を考えるべきだと思いますがね、僕は。 他人は逃げているだけだと、言い放ちたくなりました。 自分に自信がない人に僕は成れなくしっかり生きてきてしまったから

葉月 8/26 0:48	18でなければ和んだのに。くしゃ。苦々しい思いがよく現れています。工夫はありませんが、その分思いはダイレクトに伝わります。 評価ではなく共感を求めるならば、これはある種の完成形なのかな、と。なんの工夫もないストレートなただの感情を、作品として世に出すことは、僕は好きではありませんが。 戦争を知らない子どもがいる世界は、戦争を経験した人にとっては喜びでもあるという話を聞きました。ずっと、こんな娘さんがいる世界でありますように。
ぷろじぇくとＤ 8/26 2:41	最後の一文は、もうちょっと何か込められなかったかな、と思います。 でも、短い中でメッセージがうまくまとめられていると思います。
白雨 8/26 3:23	＞弟子さんの引用 弟子さんの過去のＴＡコメントからの引用です。

ＴＯＰへ

冷たい甲子園

総合順位：5位
合計ポイント：23 Point
作者：laket
作者コメントを読む

「失礼します」
静かな会議室のドアを開けて入ってきたのは帝円学院野球部監督の姫山。
「すみません、わざわざご足労いただいて」
そしてがらんとした部屋で一人待っていたのは、高校野球連盟理事の高木。

２人が集まったのは、帝円学院の生徒がおこした強制わいせつ事件についてだった。
その生徒が野球部員で無かったら問題は無かった。
帝円学院が甲子園出場を決めていなかったら問題は無かった。
だが、会議室の大きな机の上にある新聞記事は、冷酷に「帝円学院野球部員、強制わいせつ容疑で逮捕。出場は辞退？」と告げていた。

高木は陰鬱そうに口を開いて切り出した。
「姫山さん。あなたの気持ちはよく分かります。選手たちの頑張りはあなたが一番間近で見てきた。私も出来ることならこんなことは言いたくない。ですが、さすがに今回ばかりは出場を辞退していただく他はありません」
答える姫山の声も暗い。
「連帯責任、ですか」
高木は続ける。暗く、しかし力強い声で。
「はい。部員の一人一人が部の代表であり、部員全員の力で野球部は戦っている。だからこその連帯責任です。確かにそれで泣いた生徒たちもいるでしょう。けれど、連帯責任によってチームの一員であるという自覚と誇りを持った生徒がたくさんいます。私の代でその伝統を途絶えさせるわけにはいきません」

空白を埋めるのは蝉とクーラーの声。

「……ですが、他の部員には何の罪もありません。伝統のために私の部員は夢を諦めなきゃいけないんですか」
「他の部員の方々は気の毒かもしれません。しかし、ここで連帯責任を学ぶことで彼らが成長できると私は信じています。選手たちも甲子園に出場したら数々の非難を受けるでしょう、出場が生徒のためになるとは……」
姫山が激昂して割り込んだ。
「生徒のためになるかどうかは貴方の決める事じゃない！ もちろん私が決められる事でも無い！ 彼らは『甲子園に出たい』と泣きながら私に言ったんです。それだけが真実じゃないんですか」
「確かにそうかもしれません。ですが、……きっと被害者の方は甲子園に出て欲しくないと考えているでしょう」

姫山が机を睨みつけ、あえぐ様に問う。

「甲子園は誰のためにあるんですか？ 被害者ですか、生徒ですか、世間ですか」

姫山は頭をかきむしりたくなるような苛立ちを覚えていた。
この議論のキャッチボールは平行線にすらたどり着かずねじれ続けている。視線すら交差していない。

一方、高木は己を恥じていた。相手を説得せねばならないとは言え、心にも無いことを言ってしまった。高木も被害者が生徒たちに出場辞退を要求できるなどとは思っていなかったのだ。
そして、それ以上に本音でぶつかってくる相手に対して、建前で逃げるような真似をしたことを恥じていた。

姫山は机を睨みつけながらかみ締めるように漏らす。
「連帯責任は社会に必要なものかもしれません。ですが、このような形で体験する連帯責任が彼らに誇りや自覚と言ったプラスのものを与えてくれるでしょうか。むしろ、連帯責任を憎むだけじゃないんですか」
高木は姫山を見つめながら答えた。
「あなた方の高校に限って言えばそうなってしまうでしょう。ですが、私はあなたの生徒が犠牲になってでも連帯責任を他の生徒に教える事の方がメリットが大きいと考えています」

姫山は驚いて顔を上げた。高木は初めてこちらの意見を真正面から受け止め、汚い論理を口にしたのだ。
姫山も相手を見つめ、悟る。これは相手に頼るキャッチボールなどでは無く、自分のために相手を打ち倒す試合なのだ。
目の前にいる男は憎むべき敵では無く、倒すべき相手なのだと。

クーラーの音が煽るように会議室で鳴り響いている。

作品印刷　　コメント印刷
作品に対するコメントを下さい。
コメント登録

投稿者	コメント
kate 8/18 11:23	連帯責任で出場停止になっている高校があることを考えるとこのような会話は実際に行われているかもしれませんね。
Albino 8/18 11:41	ありうる話だね。昔はあまり取り上げられなかったんだが。 そうなると、それぞれの名前は本当にあった学校の 責任者に似せたのか？とも思う。（いや、よく知らんが）
s.o.u.p. 8/18 14:20	冷たいはずなのに、火がつきましたね。
takuto 8/18 15:26	甲子園好きなもので姫山を応援してあげたいという気がします。 ２人のキャッチボールには緊迫感がありますね。
八剣 8/18 18:48	確かそんな事件ありましたね。確か出たような記憶がするが。 なのであまりオリジナリティーを感じない。 作者は姫山側でしょうか。 私は高木の意見は正論だと思うのだが。
カゲヤマ 8/18 22:15	「甲子園は誰のためにあるんですか？ 被害者ですか、生徒ですか、世間ですか」 ↑この台詞はなかなか考えられたものだと思いました。 論理を拡張するのは基本的にタブーですけど、部下が犯罪を犯した社長とか、党員が汚職した首相とか、産地が改ざんされた牛肉の卸業者（販売者ではない）とかが責任を取って止めたりする今の日本の少し疑問視されるような責任の取り方にも一石を投じることが出来る作品ではないでしょうか？ 「説得せねばならないと」思う高木さんはいかに？
halcyon 8/18 23:6	ラストの熱さにぐっとくるものがありますね。 温度変化が上手い。

evolv 8/18 23:9	ルールと裁定ってどちらがいいかなんて簡単には決めれませんよね。でも一度外れた連帯責任は二度と効力を持ちませんし、この文章のように簡単に結論が出ないテーマですよね。
葉月 8/19 0:15	＞一方、高木は己を恥じていた。相手を説得せねばならないとは言え、心にも無いことを言ってしまった。高木も被害者が生徒たちに出場辞退を要求できるなどとは思っていなかったのだ。 ＞そして、それ以上に本音でぶつかってくる相手に対して、建前で逃げるような真似をしたことを恥じていた。 できれば、この文章を書かないで高木の変化を見せられるとよかったですね。どうしても少し説明的になってる間が否めないです。まあ、字数もあるので仕方ない気もしますが。 激昂できる姫山も、同じ土俵に下りてきた高木も、等しく尊敬すべき人間であると思います。
太祖武帝 8/19 0:27	冷たいどころかあつい甲子園前哨戦のようですが 連帯責任…アジアの美徳でもあり時には因習にもなりうる。そんな感じの作品ですね。ネタはこの前あったような気がするので斬新とは思えませんが、ディベート形式でまとめたのはよかったと思います。私個人としては…罪の度合いから判断すると…この場合は連帯責任にこだわらなくてもいいような気がします。
浅間ぱんだ 8/19 1:4	説明的との指摘がありますが、私はこれくらいでいいかなと。 あまり書かなすぎて予期しないミスリードをしてしまうのも問題ですしね。 あと、タイトルとシメの一文が対応しているようで良かったです。
神代千早 8/19 20:40	連帯責任があってしかるべきという前提の元に議論をするなら高木氏の見解が正論かもしれませんが、それに反対する姫山氏は連帯責任の正当性を疑問視しているので、議論がかみ合わないわけですね。ちなみに私は昨今の連帯責任（桐生一高の部員わいせつ事件による甲子園出場辞退に関する議論、青山学院の教員が光市事件に関する私見をウェブで述べて反論に合い、学長が謝罪する事態になった例、イタリアの聖堂落書きで学長が当該学生を連れて謝罪に訪問した事態等）は学校側の管理体制の問題では全然ないので正当性に欠け、「連帯責任を負うべき」というのは戯言としか思えません。 作品へのコメントではないですね。作品へのコメント。視点が一瞬ぶれましたが（高木氏の内心を語るところ）、概ね作者さんは姫宮氏の立場で語っているものと思われます。おそらくご自分の心情を姫宮氏に仮託しているのでしょう。ただ、こういう問題を扱う上ではエッセイか評論にした方が率直なように思いますが、小説仕立てにした意味は掴みかねました。作者の主張を前面に押し出す構成の方が効果を狙えると思うのですが、いかがでしょう。
halcyon 8/20 12:58	文字数の問題や作者の好みなどで小説にしたのでは？ 小説の方が簡潔に済むこともありますし。 読み手が感情移入しやすいという意味においては、小説にして正解だと思いますが…
BELIAL 8/21 17:3	理想に隠れた現実というか。 華やかな表舞台の裏ではどろどろしたものが流れてるというか。 嫌だけれども否定できない何かを感じさせられました。
EtOH 8/22 18:32	なんだか、文字は多いのだけどあっという間に読み終わってしまったという感じです。。。難しい問題ですね。 僕はhalcyonさんの言うように小説にしてもらった方が感情移入しやすくて良かったと思いますよ。
神代千早 8/23 14:33	問題の是非を議論することが目的ではなく、議論の緊迫感を表現することが目的であれば、小説仕立ての方が良いのかもしれませんね。了解しました。＞halcyonさん
やまのかめさん 8/24 4:46	情報の提示のしかたといい、間の置き方といい、なかなか良かったと思います。緊張感を保って読むことができました。 作品の位置付けですが、作者さんの主張が込められた文章というわけではないように思えます。最後に姫山が、これは言葉のキャッチボールではなく相手を倒す試合なのだ、と悟って終了していますし、そういう息詰まる舌戦を描いた作品なのだと思います。短かい文章で工夫もなくこれをやろうとするとどうしても説明調になってしまいがちではないかと思いますが、この作品では読者が想像しやすい話題が選ばれていますし、話題の選び方もよかったと思います。
bfs 8/24 10:14	こういった話に感情移入させるには、1500字という文字数は流石に少なすぎると思うのですが。とりあえず自分は、ありきたり、というかニュース記事の背景を「誰にでも思いつく範囲で」書いた、という印象。 少ない字数で感情移入させたいのなら、小説でなくエッセイの方が向いているだろうと思います（感情移入、というよりは筆者との共感だけど）。 でも、あくまで議論すること自体がメインなら、テーマの選びも分かりやすいですし、読みやすく中身もよく出来ていたと思います。

八剣 8/24 12:51	飽くまで自ら責任を取る意志がないというのであればということであれば、反省の気配なしということで、最悪『除名』ということになるかもしれませんが構いませんか？ ・・・と、このくらいのこと高木さんにはさらっと言って欲しかったな、と。 責任を被るというのはそんなもんだと思うのだが。
ぷろじぇくと D 8/24 22:48	上手い心情描写で読みやすかったです。
kk21 8/25 0:17	場面を描いた小説にして主張を伝えるなら、説明的な部分はもう少し省きその場面の細かい描写をすることで、読み手を引き込む工夫があった方が良かったかもしれません。途中の「空白を～」の描写が唐突で「ん？」と思ってしまいました。 内容について明確に主張したいならば、神代千早さんのおっしゃる通り評論にした方が描きやすかったのではないでしょうか。 扱ったテーマは良いと思います。生徒たちの胸の内を考えてしまいますね。
弟子 8/25 6:42	レッテルってのはこういうものだと思う
King Of Neet 8/25 16:4	高木さんの意見の方が正しいのかもしれないけれど、姫山さんのいうこともよく分かります。 連帯責任とはいえ部員に罪はないのだから、出場停止になれば理不尽に思うでしょう。 個人的には甲子園は大好きで毎年楽しみにしているのですが、こういうこともあるのかと思うと考えさせられます。
茶目 8/25 20:32	とても読みやすかったです!!!! 犯罪は起きなければいいね 僕は犯罪者の気持ち分かれないし、理想主義なので、難しい問題とかいう話には参加できません 後、小学生の時から思うのですが、トップの方にはしっかりしてほしいと
BRAZIL 8/25 21:50	高木の汚い論理は、世間一般では認められることはあるが、姫山の意見は、おそらく認められない。 しかし、どちらが正しいかといえば、正確に判断はできないでしょう。 そのあたりの疎ましさをこの作品から感じました。
ことり 8/26 5:58	熱いです。その熱さが好きです。 まるで自分も一緒に会議室にいるような臨場感を味わいました。

ＴＯＰへ

冬虫夏草（トウチュウカソウ）

合計ポイント：18 Point
作者：黒眉
作者コメントを読む

　冬虫夏草というものをご存知だろうか。一見すれば植物のようにも見えるが、正体は茸の一種である。冬に寄生した冬虫夏草は、夏になると宿主を完全に乗っ取る。

「今日はこの辺りでやめとくか」
　日が傾き始めたことに気付き、藤助は呟いた。夏場とはいえ、油断をしていると山中で暗闇に包まれる事になる。夜の山を経験した者ならば、藤助の判断が正しいと判るだろう。目的の山菜も充分に手に入った藤助は、早々に下山を始めた。あと半刻ほどで村に着くという辺りで、藤助の目に珍しいものが映った。
「ほぉ、不思議なもんだ。蝉から茸が生えとる」
　現在では冬虫夏草と呼ばれるものだが、日本には中々生息せず、目にする事は稀であった。毎日山に入る藤助でさえ知らなかったのも、仕方の無いことだ。藤助はその蝉を村に持ち帰り人々に見せて回ったのだが、村人は気味の悪がり口々にこう言った。
「こりゃ何か山神様が怒っとるに違いない。藤助、その蝉を早く供養しろ」
　藤助は言われるままに、蝉を燃やし山へ祈った。冬虫夏草は消し炭となり、一陣の風に流されていった。

　一年の時が過ぎ、藤助はまた山菜取りに出掛ける日々を迎えた。かつての事件など、村人の殆どが忘れてしまっていた。藤助も、そんな些細な事は覚えていなかった。しかし、藤助は再び冬虫夏草を目にする事となった。
「今度は蛙の頭に茸が生えとる。なんとも気味の悪い事だ」
　さすがの藤助も今度ばかりは気味悪がり、足早に村へ戻ると供養を行った。しかし、驚く事にその年は、蝉やら蛾やら様々な冬虫夏草が見つかった。村人らは恐ろしさの余り、小さな祠を建てるほどであった。

　さらに翌年、もう村人の誰もが事件を忘れてはいなかった。それでも藤助は山へと出掛けた。彼にとって山は恐れるものであると共に、信じるものでもあったのだ。だが、山菜を取り終え村へと戻ろうとした藤助の振り返った先には、奇妙で、想像を絶する光景が広がっていた。
　そこには蛙、蛇といった小さな生物に限らず兎、鹿といったような動物までもが倒れていた。共通しているのは、頭部からおぞましい大きさの茸を生やしていることであった。それらの動物は、微かに息があり発症したのはつい先刻であることを藤助は理解した。動物は確実に動きを弱めていき、ついには微動だにしなくなった。異様な光景に恐怖を感じた藤助は、荷物を捨て、逃げるように山を下りていった。

　その晩。村は一大騒動となっていた。日が落ちても藤助が戻ってこないのだ。なにしろ村では山神様の怒りが話題に上っていた頃だから、村人らは不安に不安だっただろう。村人総出で捜索したが、結局藤助を見つけることはなかった。

　数年が経ち、ここしばらくは冬虫夏草も姿を見せなくなったころ。山菜を取っていた一人の男があるものを見つけた。

「おぉーい、こっちに来てみぃ。奇妙なもんが生えとるぞぉー」
　村人がそちらへ向かうと、そこには人間の子供程はあろうかという茸が生えていた。恐ろしい予感と共に周りを掘り返すと、その地面から人間の手がでてきた。
「藤助！」
　一刻ほど掘り返すと、そこには、頭に巨大な茸を生やした藤助の姿があった。

作品印刷　　コメント印刷

作品に対するコメントを下さい。

コメント登録

投稿者	コメント
Albino 8/18 11:51	ああ、そんなものあるんだ。 ホラーだなあ。これはこれで面白い。 文章を頭で映像化して読む人はさぞかし辛そうだ…
s.o.u.p. 8/18 15:2	そんなものを美容に使うなんて、人間もすごいことしますね。 そのうち美しさの基準が……。いえ。なんでもありません。
黒猫 8/18 17:10	嫌な寒気を感じました…… でも冬虫夏草って可愛いよね！
柚子(ゆうこ　です) 8/18 17:40	楽しく読ませていただきました。
石花 8/18 20:46	昔、フルカラーの冬虫夏草図鑑を見たことがあります…トラウマです。
カゲヤマ 8/18 21:42	まさしくバイオハザード。 これは現実性はあるんんですかか？ （将来的にも）無いことを祈ります。
箒 8/18 21:55	途中で結末の想像がついてしまい、先を読むのが怖すぎました。 今日夢見てしまいそうです。
halcyon 8/18 23:16	昔話系ですね。 語り口を変えたら幾らでもバリエーションが出そう。
ザ サン・オブ・オージー 8/18 23:27	妄想族には乾いた手や表情まで浮かぶから困ります＞＜ でも、良かったです。
katz 8/19 0:47	あれっ、今流行の都市伝説ネタですか？でも作者の博識さには驚きました。
evolv 8/19 1:42	下りていったのになぜ山で発見されたのだろう。 冬虫夏草の図鑑私も見たことがありますけど、あれはきついですよね。
to 洋灯 8/19 18:29	夢にみました。
BELIAL 8/21 15:34	現実にあったら怖いですねぇ。 その後藤介を見つけた村人たちがどうなるかがちょっと気になったり。
aya 8/22 14:3	冬虫夏草を知らない私でもホラーとして読めました。恐いですね。 冬虫夏草、調べてみました。画像見ました。今日のごはんは食べられそうにありません。
qofhk 8/22 17:14	怪談なのにおもしろかったです

めんとすこーら 8/23 16:6	全体的に雰囲気がまとまっていていいですね。 あくまで頭だけがきのこというのが怖い。
EtOH 8/24 4:54	ホラーだ・・・。コエー。。。 冬虫夏草ですかぁ、はじめて知りました。こんなに怖い茸あるんですかぁ・・・。 ちょっと当分茸はいいかなぁと思ってしまったり・・・。 するするするーっと読んでいくと・・・ぎょっ！って感じでした。 もう、想像しちゃったよぉっ！！！
神代千早 8/24 13:2	冬虫夏草は昔上野か多摩の昆虫園で見たことがあります。実に興味深く、気持ち悪いとは思いませんでしたので、コメントの皆さんの反応が面白いです。 星新一のショートショートに、「暑い日」という作品があります。昆虫を殺して爽快になり、だんだん大きな生き物を殺すようになって次は人間か……とという作品がありましたが、その構造を思い出しました。本作品は考え落ちではなくて書ききってしまってますが。ホラーだと結末をはっきり書かないのも一つの手法ですね。ともあれ面白く読めました。恐怖感がなかったのは作品のせいではなく、私がホラー耐性ありすぎなのかもしれません。
bfs 8/24 13:35	雰囲気が出せてる文章・設定なだけに、冒頭で読めるオチが非常に惜しいと感じた。
floccinaucinihilipilification 8/24 14:34	bfsさんに同じくオチが読めて、そのまま特に何もなく読み切ってしまいました。 意外性のあるオチに持っていくか、とことんまでにホラー・グロ路線を極めるかした方が良かったと思います。
ぷろじぇくと D 8/24 22:54	オチが読めてしまったのは少し残念だけれど、意外なネタで攻めていたのはよかったと思います。
白雨 8/25 13:50	最初から冬虫夏草、というネタが分ってしまっているので怖さが半減していて、更に異変の原因が山神の怒り、で片付けられてしまっているのが安易すぎる気がしました。
ノア 8/25 13:57	読者がオチに気付くと想定されているのは、藤助が行方不明になった時点であるように思いました。 それ以降になにかひと山あればよかったかも。
葉月 8/26 0:54	山神様の祟りと勘違い（でもないかもしれないけど）している伏線を回収するかと思ったらしなくてガクカリ。 藤助が転んで意識を失ったり、そういう描写があるともっとよかったです。途中で大体の人はオチが読めるわけですから、どうせならしっかり溜めた方がよかったと。

ＴＯＰへ

ミーン　ミーン　ミーン

合計ポイント：17 Point
作者：evolv
作者コメントを読む

七年の歳月を光も届かない場所で待ち続け、残りの時間を、種としての役割だけで飛び回る
その鳴き声は、都会の喧噪に負けることなく、力強く、激しく響き渡る
鳴くことだけが、自分のすべてであり、誇りであるといわんばかりに
私はここにいると鳴いている

　用事をすました帰り道、夕方だというのに、日差しは肌を焼くように熱く、空気は血を沸騰させるように蒸している。

　新しい土地に身を置いて、すでに数年がたった。どうやら夏の暑さは私を逃がしてくれないらしい。コンクリートジャングルは人類への反発か、その反撃はすさまじい。シャツはべっとりと背中に張り付き、流れる汗する生暖かい。時折開くコンビニからの冷気が心地よい。

　ふと懐かしい鳴き声が聞こえてきた。耳障りで、やかましい夏の風物詩。しかし、少しばかり弱々しい。地元では、懐かしいと思うこともないくらい頻繁に聞く音も、この街では少しの間、たまにしか聞こえない。

　地元では、勉強中に網戸に張り付かれ、すばらしく迷惑なBGMを奏でられ、夜は斬新な子守歌を歌ってくれた。ここでは、夜のララバイはお休みで、恥ずかしがり屋なのか、姿を見せることも滅多にない。

　私は、灼熱のコンクリートロードから無事逃れ、家に帰って靴下を脱ぎながら、テレビをつける。窓の薄さか、鳴き声はまだ聞こえるが、やはり少し弱々しい。ゆっくりと映像をつけたテレビからは、虫取り編みを一生懸命振り回している子供がいた。私にはない若さがうらやましい。その後、今では誰でも知っている生態を、親切なお姉さんが解説してくれた。

　一生の大半を地中で過ごし、残り少ない命で恋をするために飛び回る。まあ、なんてロマンチックな話だろう。

　七年間も過ごしてやることが子孫を残すだけなんて。私だったらもちろん恋もしたいが、ほかにもいろんなことをしたい。旅行に行って、友達と遊んで、ドラマを見て、マンガを読んで。ああ、結局遊んでばっかりだな。なら人はなんのためにだらだらと生きているんだろう。

　人のため、お金のため、世界というシステムのため、企業のためという人もいるかもしれない。どれもこれも違う気がする。考えている内に堂々巡りして、室内の温度とともに私を茹であげる。

　そのとき窓に小さな陰がついて、珍しく元気な音が鳴り響く。まるで、私の考えをあざ笑うように、自分の

生き様の潔さを見せつけるように。森林の失われたこの街で、まったく生き方を変えずに貫き通すその鳴き声に、先ほどの弱々しさは感じない。これだから人は時間を無駄にすると。考えるのをやめさせてやると言わんばかりに鳴いている。

　この音を聞いていると、先ほどの考えを少しだけ考え直し、シンプルだけど力強い生き様が少しばかりうらやましいと思ってみる。

　ややこしいことを考えるために知識があるのなら確かに楽園にはいらない。まあ、せっかく貰ったものだから、勝手に考えて、勝手に結論づけて、人間様の特権だ、もう少し自由にやらせてもらうよ。例えそれが辛い現実だとしても。

　私の曖昧な答えに陰は満足したのか、残り少ない命とは思えないくらい元気に飛び立った。

　辺りは急に静かになってテレビの音声だけが小さく流れている。遠くから、夏の終わりを告げる音が混ざり合った。

作品印刷　　コメント印刷

作品に対するコメントを下さい。

コメント登録

投稿者	コメント
EtOH 8/18 19:44	なんだかとてもメッセージ性の高い作品で、読んでいて考えさせられてしまいました。 それだけじゃなく一つ一つの描写がとても綺麗で　本当にすごいと思います。 斬新な子守唄ってなんだかいい表現ですね。あぁ、なんだか蝉の鳴き声を聞きたくなったきましたよぉ。
aya 8/18 21:9	ちょうど蝉の鳴く声を聞きながら読んでいたので、場面を創造しやすかったです。 文章の終わらせ方もうまいですね。余韻を残して終わるから、文章にのせられたメッセージについてつい考えてしまいます。
箒 8/18 22:40	共感させられる部分が多くて、たしかに、たしかにと頷いておりました。・・・こんな素敵にコラム書き上げられる人に、７年後なりたいです。
halcyon 8/18 23:48	斜体と普通の文字が並んでいると少し読みづらいかな…？ 初めの四行だけ違うタッチなので、そちらを斜体とか太字にしたらエピグラフっぽくなるんじゃないでしょうか。
浅間ぱんだ 8/19 0:35	言いたいことが背景にあって、それを伝えられている良い作品だと思います。 あとはhalcyonさんの仰る通り、斜体と普通を並べると読みづらいですね。
evolv 8/19 1:47	東京ではセミあんまりいないですもんね。 生きることを考えるって難しいですよね。答えがあれば楽ですけど、もし答えがあったらおもしろくないですね。
BELIAL 8/21 16:59	詩的な表現なのはわかるんですが、それでも日本語として変な個所が多く見受けられたのが残念。 雰囲気が良いので、事細かに指摘するのは無粋かもしれませんが。それでもやはり気になったので。
floccinaucinihilipilification 8/24 17:52	巧みな表現力、描写力だと思います。 蝉と人と、それぞれの生き方がありますよね。 確かに斜体と普通の文字が並んでいる部分は読みにくかったです。
ぱきまる 8/25 1:8	夏の終わりを告げる音はなんだろうなぁと考えました。雷鳴？

弟子 8/25 6:53	気付いたら自分は「社会」というシステムに取り組まれていて、絶望したことがあります 其の中で物事に対する思考を選択されているような気がして、吐き気がしたことを覚えています 他の生物に対して感想を持つことは間違っているわけではないが過度に行うのは勧めない どうせやつらも自分のことなんぞ考えていることはないのだから
bfs 8/25 13:56	タイトルですごく損をしている作品、という印象。 折角面白いこと書いてるんだから、もうちょいタイトルにも気を使ってほしかった。 内容自体はとてもいい感じ。 でも日本語的におかしいところが何箇所か、それと誤字もあるので、校正をきちんとやるともっと良くなると思う。 # こーいうのは「よかった」以外に感想言うのがすごい難しいですよね。ともすれば自分語りに終始してしまうし。 ## 自分語りも高じれば芸ですけどね。
茶目 8/25 17:56	僕の考えになりますが この作品のような視点は好きではないかなぁ というようなことを思いました。
bfs 8/26 22:12	や、タイトルが弱いというか、タイトルだけすげえ気が抜けてるって感じがどうかなー、と。 擬音って上手く使わないとマヌケな印象を与えてしまうので。
evolv 8/26 22:30	ｂｆｓさん作者コメントへのコメントありがとうございます。 その間抜けな感じにしたかったんですよ。なかなかうまくいかないものですね。なにかいいタイトルがあったらここにアップしてほしいです。次回のために！

ＴＯＰへ

もうイヤ

合計ポイント：15 Point
作者：浅間ぱんだ
作者コメントを読む

……俺は暑さで目が覚めた。
今年の夏は一段と暑いが、夜くらいは手加減してくれないものか。
時計を見ると午前2時。まだ起きる時間ではない。

何か、すごく嫌な夢を見ていた気がする。
巨大なゴキブリに追いかけられ、そうだ、俺は喰われたんだった。
しかし、夢で良かった。そう考えつつ便所で用をたし、再びベッドに横たわった。

……カサッ

気のせいだろうか、何かが動く気配。

分かっている。分かっているけれど、分りたくないその気配は確実に近づいてくる。

……カサッ

まだ夢が続いているのだろうか。そうか、これは夢か。
あー、また喰われるのか。俺はゴキブリの餌になるのか。嫌だなぁ……

……ガサッバサバサバサッ

耳元の音で現実に引き戻される。
俺は枕もとのスプレー缶をひっつかみ、見えない敵に攻撃をしかけた。

……翌朝。

いつの間にか眠っていたようだった。

何が夢で、何が現実だったのか。よく覚えていない。

しかしその後すぐに俺は、
寝がえりをうった我が巨体の下敷きとなり
無残な姿を晒す敵と対面し、実に涼しい朝を迎えたのであった。

作品印刷　　コメント印刷

作品に対するコメントを下さい。

コメント登録

投稿者	コメント
evolv 8/18 10:1	Gの恐ろしさを感じました。 最悪の場合は、巨体の下敷きとなっても動きが封じられていただけで、対面した瞬間、舞い上がったら卒倒ものですね。
Albino 8/18 12:6	ごめん、寧ろ大爆笑。いいオチだねこれは。 夏は虫が良く出るからね。Gも勢力が強まってるんだよ。 これで作者の実話だったら怒られますね、俺…
s.o.u.p. 8/18 13:36	背筋が凍るほど涼しい朝ですね。わかります。 夏と言えば確かにG。盲点でした。
柚子(ゆうこ　です) 8/18 17:23	生活の匂い立つような瞬間を見てしまったような・・・夜が怖い
aya 8/18 20:16	思わず笑ってしまいました。 夏なのに涼しい朝。その視点が素晴らしい。
箒 8/18 20:42	私の場合、蚊だったりします。・・
みーちゃん 8/18 21:25	ごきって夏しかでませんよね。冬は全然見ない。冬眠してるのかしら？
石花 8/18 23:2	あの装甲を潰すなんて、主人公は凄い巨躯？
太祖武帝 8/18 23:14	Gとの対決…見事です。文章もきれいにまとまっていて読みやすかったです。
to 洋灯 8/19 19:27	御冥福をお祈りいたします。
BELIAL 8/20 2:39	GYAAAAAAAAAAAAAAAAAAAAAAAAAAAAAAAAAAAA …あぁもう、夜寝れなくなりそうじゃないですか(笑)
未草 8/20 14:46	太文字がわざとらしくなくて、すごく効果的だと思いました。 しかし私は毎朝Gホイホイを開けて、彼らを観察する人を知っているので怖くはありませんでした。
me 8/20 21:19	読んだだけで鳥肌がたちました。 姿というより、潰した感覚？残りそうで怖いです。
森　武 8/22 16:54	僕は家で、ゴキヲ見たことがないんですが、（覚えてないだけかも知んないけど、）一度、窓から、入ってきたとこを見たことがあって、そん時は死ぬほどびびりました。主人公と同じ立場になったと思うと、死にたくなります。
パンリコ 8/22 17:32	皆さん本当にゴキ嫌いなんですね。私は田舎の古い家に住んでいたのでよく御対面してかなりの数を退治しました。この作者さんも「もうイヤ」程度のタイトルで、最後は見事成敗しているのでそれほどイヤではないように見られます。 バサバサバサもいいですね、ゴキは飛べるんですよ！

EtOH 8/22 18:23	・・・怖い。読みながらちょっと自分の部屋を見回してしまいました。耳をすましてみたり・・・。 最近知り合いにGの被害者が続出しています・・・。次は自分かも・・・。
箒 8/22 19:29	余談ですが、岐阜から来ている知り合いから『Gダンゴ』がよく効くと伺い、試してみましたところ効果テキメンでした。
floccinaucinihilipilification 8/24 14:28	夢と現実が逆になってるところが面白いですね。夢の中でも現実と同じようにゴキブリに潰された方が良かったかもしれません。 酷く個人的な話ですが午前2時というとまだまだ活動時間だと思っているのでそこだけズレを感じました。
kk21 8/25 0:21	オチがいい。涼しくなってヨカッタネ! 今回の投稿作品で一番のグロでホラーなんじゃないかと。 個人的には。
白磁 8/25 18:16	G、怖いですね。 タイトルから内容にはあんまり期待してなかったのですが、見事に期待を裏切られました。 太文字がどんぴしゃりです。太文字以外ありえないですね。 余談ですが、築45年の我が家は最近Gが出なくなりました。ついに見放されたか。

ＴＯＰへ

焼け付くような日差しの中で見た

合計ポイント：14 Point
作者：葉月
作者コメントを読む

夏といったら何を思い浮かべるだろうか。
海を思い浮かべる人は多いだろう。山を思い浮かべる人だって負けていない。プールだって多いだろうし、インドア派はクーラーが真っ先にイメージできるかもしれない。不健康かもしれないが、何を思い浮かべるかなんて人の自由だ。そんなことで人にどうこう言われる筋合いはない。
そんな僕が思い浮かべるものも、ちょっと人からズレたものなのだ。上の段落は、それに対して適当なレッテルを貼られないようにするための予防線といってもいい。何故なら、僕が思い浮かべるものは、死体だからである。
この時点で、一部の方々は嫌悪感を示すだろう。大多数の方々は、なんで？　と疑問に思うかもしれない。俺も俺もと言う人は極少数派だろう。そんな人とは、ぜひ一度酒を飲みながら語り合いたい。
あれは、忘れもしない小学6年生の夏。あの頃、僕は田舎と呼ぶにはにぎやかだけど、都市と呼ぶには寂れた町に住んでいた。駅前はそれなりに整っているけど、高いビルなんてないし、10分も歩けばお店もなくなる。そんな、どこにでもある小さな町。線路沿いには田畑が広がり、そこで僕は良く遊んでいた。
遊ぶといっても、特段たいしたことはしてない。良い形の石を拾って集めたり、木の枝を剣に見立てて振り回したり、アリの巣穴を尿で壊滅させたり、他愛もないような遊びだ。昔から僕はちょっとずれていたようで、あまり一緒に遊ぶ友達もいなかった。というか、一人で気ままに動いているほうが好きな子どもだったようだ。もちろん、それなりにみんなで野球とか追いかけっことか冒険ごっことかした覚えはあるけど、一人で遊んでいる記憶のほうが圧倒的に多い。
その日も僕はたった一人、水辺に滑り落ちないようにギリギリまで近づいたりして遊んでいた。駅のほうから、電車が一台やってきた。けたたましい爆音を上げて通り過ぎるのを、いつもどおり耳をふさいで待っていた時、どこからか「ケヒャ」と、形容しがたい音が聞こえた。甲高い悲鳴のようにも聞こえたし、硬いものが潰れた音にも聞こえたし、生き物を踏み潰したときの鳴き声のようにも聞こえた。
ふと見ると、一人の少女が倒れていた。歳は8～9程度。当時の僕より2つ3つ下という程度だ。汚れた白いTシャツにデニムの半ズボンという健康的な格好で、虫かごを持っていた辺り、アメンボでも取っていたのかもしれない。大の字に横たわる少女に近づくと、顔が不自然にひしゃげていた。
右目の上辺りを硬い何かが直撃したらしい。眉毛に程近い部分は眼窩よりもくぼんでいた。口はアヒルのように突き出ていて、鼻水と涙がだらだらこぼれている。手はわずかながらピクピクと動いていて、もしかしたらまだ息はあったのかな、と今更ながら思う。けど、小学生にそんな冷静な判断が出来るはずも無く、明らかな非日常である彼女を見て、怖くて、気持ち悪くて、たまらなくなった僕はその場を駆け出した。要するに逃げ出したのだ。
家に帰っても、誰にも言えなかった。言ったら、何かが終わってしまうような気がしたのだ。怯えて眠れず母の布団にもぐりこんだときも、何かあったの？　と母が心配した笑顔を見せた時も、口をつぐみ、脳裏から彼女が消え去ることを祈っていた。
何故か、少女の死体が出たという噂は流れなかった。親が子どもに聞かせないようシャットアウトしていたのだろうか。線路沿いという位置からして、見付からなかったとは考えにくい。だけど、僕の周りでは行方不明者が出たという話もなかったし、実際のところ良く分からない。

それでも僕は、あの少女の顔をいまだにはっきりと鮮明に覚えている。

作品印刷　　コメント印刷

作品に対するコメントを下さい。

コメント登録

投稿者	コメント
kate 8/18 11:20	とても気になります.
EtOH 8/18 19:59	夏と言えば死体だなんて　そんなこと言われたら最後まで読むしかないですよ！気になっちゃうから。 最初見た時の印象は「うわっ、白少なっ！字多っ！」でしたけど、ちゃんと読むと　全然読むのが苦じゃなくて話に入り込んで読めました。 少女はいったい何だったんでしょう？？ちょっとホラーですね。
カゲヤマ 8/18 21:29	あの～。次回の題は「いと」なんで、気になるから続きを書かせてもらって良いですか？（笑）
halcyon 8/18 23:11	いい感じの怪談というかホラーというか。 耽美ですねー
作者 8/19 0:28	＞カゲヤマさん 私の作品がカゲヤマさんの創作意欲を刺激したと思うと、うれしい気持ちにすらなってきます。 どうぞご自由にお書きください。ただ出来るなら、それ単体でも読めるような作品であることを望みます。この作品を読むことが前提ではないような作品をお書きください。きっと、それがコラムiランドの主旨でもあります。
evolv 8/19 1:13	最後まで読ませる文章構成がとてもうまいと思いました。段落がぎちぎちしていて少し読みにくいのが難点。
to 洋灯 8/19 17:17	わからないまま終わるってのは怖いですね。じわじわ後を引きます。 最初に読者を引き込んで正体を明かさないまま綺麗に締めくくる、お見事です。
柚子(ゆうこ　です) 8/20 9:30	この筆者の本当の経験かしら　と思わず考えてしましました。わたくしが気になるのはその後の彼がどのように心の中でこの光景を昇華したかということです。
柚子(ゆうこ　です) 8/20 9:30	この筆者の本当の経験かしら　と思わず考えてしましました。わたくしが気になるのはその後の彼がどのように心の中でこの光景を昇華したかということです。
バケネコ 8/20 15:4	これは怖いですね。 文字数制限がきついので、本当に怖いホラーはちょっと難しいのでは…、なんて思っていたのですが、完敗です。
BELIAL 8/21 15:40	嫌な思い出ほど忘れられない、とはよく言ったものですよね… こんな経験したら、きっと私も忘れられないと思います。
qofhk 8/22 17:22	実際に遭遇したらかなり怖いですね
カエデ 8/23 15:46	改行がほとんどなく初めは取っ付きにくいですが、ストーリー、文章力が優れていて、素晴らしいコラムだと思います。 この作品はこれで完結していると思うので、この続きがどうなるかにはあまり触れないほうがいいと思います。
浅間ぱんだ 8/24 1:33	最後まで一気に読ませるだけの内容でしたが、やはりある程度改行と空白がないと読みづらいです。

黒眉 8/24 3:17	陰惨な様子がリアルに書かれていて、面白かったです。怖かったケド。少女の正体がはっきりしないところも、自然に書かれていたのが凄いと感じました。長いはずの文章なのにスラスラ読めて、物語に引き込まれました。 　でも、やはり改行が気になりました。「〜〜酒を飲みながら語り合いたい」の後は空行を入れても良いように感じました。 　また、「夏」というテーマである必要性が薄いのも気になってしまいました。怪談を思わせるという点では効果があったのかもしれませんが、それでも「夏」の要素が少ないように思えます。
神代千早 8/24 13:9	怪談ものの中では現実味のある状況設定でよく書けていると思います。描写は想像しやすいですね。風景等は実際に住んでいたところを参考にしているのでしょう。不思議も残して余韻を引き摺るあたりも手慣れた印象を受けました。死体マニアではありませんが、今度酒を飲みましょう。
floccinaucinihilipilification 8/24 14:32	これはホラーではないと思いますが・・・。 内容も表現技法も想像力をかきたてる良作だと思います。 読者への呼びかけと回想では大きくシーンが変わるのでそこに改行は欲しかったですね。
aya 8/26 5:49	描写が多すぎず少なすぎず、少女の正体など謎を残したままなのにとても自然にまとまっていますよね。ホラーとして完成度の高い作品だと思います。見習いたいです。

ＴＯＰへ

真夏にはビールとビキニ、それから少しだけの拳銃を

合計ポイント：13 Point
作者：greenbard
作者コメントはありません。

寄せては返す波。海面はゆっくりと後退して、白い砂浜はその面積を広げていく。太陽は南中。ギラギラと突き刺さる光線に、俺は目を細めた。眼前をビキニ姿の女たちが通りすぎる。頬の筋肉が弛む。ぬるくなったビールを喉に流し込んで新しい缶を開けた。
たまの休日だ。俺は砂浜に横たわり、ビール片手にビキニ観賞と決め込んでいた。仕事から解放されて家でゆっくりしていたかったが、こうやって妻を海水浴場へ連れてきた。それだけでも大層なサービス。いわばスペシャル。ありがたく思ってもらいたいものだ。
「奥さんと海水浴なんて羨ましいですね」
声を掛けられて俺は振り返る。そして絶句。上から下まで真っ黒いスーツに身を包んだ男。黒いサングラス。ご丁寧に白い手袋まではめている。松田勇作のようなくしゃくしゃの髪。ビーチにはあまりに異質な出で立ちに、俺は思わずたじろいだ。
「暑くないですか？」
しばらくして俺は訊く。
「まずは形から入るというのが私の流儀で」
男は訳の分からぬ返答をして、俺はますます混乱した。
「あ、申し遅れました。私、殺し屋を営んでおりまして」
男が手を差し出したので、俺は自然とその手を握る。それから、少しのタイムラグ。
「……殺し屋？」
ようやく言葉の意味が脳に到達した。
「あ、私、この度、あなたを殺すように依頼されまして。こうしてまかり越したわけです」
「俺を？」
男はにっこりと微笑んだ。あまりにも非現実的な展開に、俺はうまく対応できずにいた。
「誰に？」
「依頼主ですか？　それはお教えできません」
「いくらで？」
「五十万円ほどです」
「……ずいぶん安いんですね」
あまりにも間抜けな返答。でも、あまりの安さに正直、拍子抜けしてしまった。
「ご安心を。それがあなたの価値というわけでもないのです。五十万円というのは、私が人を殺してもいいと思える値段。リスクとリターンを考えて私が弾き出した金額にすぎません」
「でも、殺し屋にしては……目立ち過ぎませんか？」
「黒い服、白い手袋、サングラス。大概、人の記憶に残るのは、私にとって飾りの部分だけ。そういう戦略でして」
彼はにやり。俺は残っていたビールを飲み干した。ぬるい苦味が喉を通り抜ける。
「たとえば、百万円払うからそれで俺を見逃してくれるというのは？」
「それがあなたの命の対価というわけですか？」

　男は笑って、俺もへらへら笑う。
「駄目です。この業界、こう見えて競争社会。信頼をベースに成り立っていて、プラス五十万じゃ、依頼人を裏切れません」
　男はポケットから拳銃を取り出して、俺の額に突きつけた。
「ちょっと待て。これならどうだ？」
　俺の言葉に、殺し屋は一瞬、手を止めた。俺はこの機を逃すまいと喋り続けた。
「俺を殺して手に入れる予定だった五十万。それに、俺の依頼でもう五十万を上乗せして合わせて百万。それで、俺を助けて俺を殺すように命じた依頼主を殺せ。依頼人は死ぬんだ。信頼が揺らぐ心配なんて不要だ」
「面白いことを考えますね」
　殺し屋は笑った。
「いいでしょう」
　男は拳銃をしまって、代わりに一枚の名刺を差し出した。
「明日までにこの口座に百万を支払ってください。そうしたら、あなたは晴れて人殺しの依頼人になる」
　その発言に、俺は冷水を浴びたような気分になる。それでも、俺はその名刺を受け取っていた。男は俺に背を向けると歩き出した。ビキニの女性たちが彼の格好を見て笑うのが見えた。ふらふらと立ち上がる。青いクーラ・ボックスから新しいビールを取り出して喉に流し込む。
「どうしたの？　汗びっしょりじゃないの？」
　気がつくと隣に妻が座っていて、俺はいまさらながら海水浴場にいたことを思い出して、妻に抱きついた。

作品印刷　　コメント印刷

作品に対するコメントを下さい。

コメント登録

投稿者	コメント
それから 8/18 9:26	題名に、凄くそそられました。「拳銃」が「男根」と象徴だとすれば、「ビール」「ビキニ」「拳銃」と、どれをとっても、男の願望の具現化であり、また、男の欲望を、あからさまに表象してしまっている気がしました。フロイト的に解釈すれば、の話ですが。
evolv 8/18 9:37	なんとなく一番上にあったので読んでみたんですけど、なんか夏のプールが無理矢理な気がしますね。それもビキニをはさむ必要があったのだろうかと。 このあと最初の依頼主は、殺し屋に２００万払って、また主人公を殺すように言うのですかね。ただの詐欺師のお話にしか思えなくなってきた。
takuto 8/18 15:52	こういう非現実的なフィクション、わりと好きです。 話の展開もわかりやすかったですし、読みやすくて良かったと思いますよ。
黒猫 8/18 17:28	結果的に、初めの依頼主が殺されるかもしれないんでしょ？ むしろ酷く信頼を失う気がしますけど。 でも、とっさの発想で上手く危機を回避する様は面白いですね。
SOta 8/18 17:51	うまい発想、それに気を取られて、人殺しを依頼するということの重大さ、命の価値を見失っていたということですかね。 男がいなくなった後の茫然自失とした様子が非常にうまく描かれていると思います。
halcyon 8/18 19:49	風景がシュールで良いですね。 妻がいるくらいの年齢の男性が50万で殺される、という不条理さもいい感じです。
aya 8/18 21:21	物理的に殺さなくても、立場とか精神面とか、そういう意味で「殺す」ことって社会ではありますよね。たった50万、100万で誰ともわからない人の人生を狂わせるというのに、何かメッセージがこめられているように感じました。
カッシーニの空隙 8/18 22:49	それでどんどん依頼が反射して結果的に殺し屋が儲かるのかな、そういう風に想像しました。

浅間ぱんだ 8/19 1:30	面白い詐欺の方法があるもんだと思って読まさせてもらいました。
白雨 8/19 19:23	ます題名が面白そうでした。場所に全くそぐわない恰好の殺し屋が、挨拶をしてくるという展開も、非日常的で良い。 ただ、題名、展開、殺し屋のキャラ、どれを取っても非常に私の好みなんですが、冒頭一殺し屋に声をかけられる前に妻がどこにいたのかの描写がなかったのが残念でした。それまで完全にフレームアウトしていたのに、最後だけ出てくるのがもの凄く不自然です。 最初から妻はそこにいたのか（夢オチ）、海へ出ていたのか（無関係）、少し離れていた所で見ていたのか（妻が依頼人）、限定したくなかったというのなら分りますが。
BELIAL 8/20 2:48	あぁ、そういえば海水浴場の光景だったんだ。 話としては非常に面白かったです。依頼人が誰なのかとか、想像力をかきたてられました。 ただ、ちょっと"俺"が冷静すぎますかね…もうちょっと慌ててもいいんじゃないかと。
no price 8/20 10:46	かなりテンションが低いがそこがなんとなくそそられます。 夏なのでしょうか？
halcyon 8/20 13:2	妻の書き方がちょっとご都合主義な感じはしますね… 最初の描写の際に一言くらい彼女のコメントを入れないと、キャラクター性が感じられないというか。
森　武 8/21 17:59	タイトルにすごい惹かれました。主人公のとっさの反応も面白いです。この後どうなったか気になるところではありますが、話を切る場所もいいと思います。
qofhk 8/22 17:19	想像するとかなりシュールな風景ですね
カエデ 8/23 15:52	殺し屋の不気味さが現れていていいのですが、少しおしゃべりしすぎの気がします。 日常的な空間で突如異常な雰囲気に包まれる展開は面白かったです。
カゲヤマ 8/23 16:41	ジャンル分けするなら「ナンセンス系」のこの作品。 他の方々もおっしゃっておりますが題の３つの（話の中での）ミスマッチさが面白いです。論理的につっこんだらいけません！
EtOH 8/24 5:27	タイトルに惹かれました。いや、うまい。 なるほどカゲヤマさん、論理的に突っ込んではNGですかぁ。 では、個人的な感想を。。。 割と好きです、こういう話。殺し屋ってだけで何割かカッコよく見えちゃうのは自分だけ？？なんだか殺し屋のイメージに、依然読んだ小説のキャラが勝手に張り付いてしまいました・・・。いや、そのキャラがカッコいいんですよ、ほんと。
ふんざ 8/24 15:42	妻が依頼主かと思いましたが、シュールな感じで終わりましたね。世にも奇妙な物語みたいで、好きです。
floccinaucinihilipilification 8/24 17:19	星新一っぽいですね。というかこんな話があったような。 最初にそう思ってしまったので、オチがいまいちはっきりしなかったのが残念でした。 それからさんの解釈は面白いと思いました。
ぱきまる 8/25 0:49	私も星新一っぽいなと思って読み進めました。 振り込め詐欺のニューバージョンですね。
King Of Neet 8/25 16:35	非現実的な話ですが、読みやすくて好きです。 依頼人の正体が気になりますが… 途中までは妻が依頼人なのかと思っていました。
BRAZIL 8/25 19:6	殺し屋は、もともと冷静であるというイメージがあれども、海でスーツを着ているという異常さがこの話のおかしさを出していると思います。 最後に妻に抱きついたところは、いかにも人間ぽいですね。
茶目 8/25 20:38	この作品の論理部分？は昔自分も思ったことあります。

葉月 8/26 1:59	額に突きつけられた時、冷水を浴びたような気になったほうがスムーズだったかなあ、と。このときにまだ現実感がなかったなら、「この機を逃すまい」は言葉として強すぎる気がします。 変な人が出てくる話は好きです。変だから。

ＴＯＰへ

青春、朱夏、白秋、玄冬

合計ポイント：13 Point
作者：s.o.u.p.
作者コメントを読む

人の一生を四季に例えると、夏はどんな時期を指すのかと考えてみた。

夏は一年中で最も暑く、最も太陽が高く、最も昼が長い期間だ。
夜でも活動しやすく、その夜も短いから活動時間が長い。
しかし、環境は厳しいので気を抜くと潰される。
無理をすると身体に障る。
それでも気力で乗り切れる。

一生の中でこんな厳しい年代は、20代から40代ではないだろうか。
人生80年として4等分してもちょうどこの辺りだ。
働き盛りの、人生の夏。

こう見ると私も夏にさしかかっているはずだが、とてもそうは思えない。
21歳独身。
恋人なし。
自分の時間はすべて自分の好きなように使えるが、精神が未成熟で不安が多い。
しかし、将来の具体的な選択肢を決めなくても、まだまだ社会的に許されてしまう。
自由と力不足で何もかもが不安定。
心の中はいつも曇天だ。
さしずめ人生の梅雨といったところだろう。
せいぜい、人に見られても恥ずかしくないよう身体を鍛え、腐らないようにしよう。

ところで。
春はいつ来るんだろう？

作品に対するコメントを下さい。

コメント登録

投稿者	コメント
それから 8/18 9:17	村上春樹のエッセイに、確か似たような話があったと思います。
kate 8/18 11:18	いつくるんでしょう？笑
作者 8/18 13:39	＞それから さん 何と言う作品ですか？良かったら教えてください。
halcyon 8/18 19:53	倒叙的なラストがいいですね。
カッシーニの空隙 8/18 22:40	人生80年　4等分して20～40を夏としたので、 0～20　春　芽吹き 20～40　夏　働き盛り 40～60　秋　熟れる頃 60～80　冬　晩年(悲しい表現ですが) のように勝手に解釈してしまい、最後の文章がなんだかおかしく感じてしまいました。
石花 8/18 23:0	私の春もいつくるんだろう…
katz 8/19 1:2	前向きに解釈していいのか不明です。
evolv 8/19 1:27	きっと来ますよ。 でも、なにかの本で４０超えて春が来ないとそのまま枯れてしまうというのを読んだ気が・・・。
浅間ぱんだ 8/19 1:40	最後2行が素晴らしい。
神代千早 8/19 21:5	他の季節の考察も欲しいなと感じましたが、まあ夏の考察と宣言されているのでそこはやむなしと。初読でたいして印象に残らなかったのですが、最後の二行を青春は既に来ていておかしくないはずなのにという嘆息と捉えると、にわかに面白みを感じるようになりました。
BELIAL 8/21 16:34	そういえばまだ春来てませんね。 タイトルも秀逸でしたが本文もなかなか。いやまいりました。
EtOH 8/22 15:15	なんだかよくわかりますよーその気持ち。 自分が社会に出るのなんてまだまだ先の話ですからね。大学院までは社会に出ないまま過ごせちゃうんですもんね。社会に出るときにはもう30近いのかぁ。。。 春は・・・ほんといつ来るんだろう？？瞼閉じればそこに・・・ないけど。。。
greenbard 8/22 17:25	うん。最後の２行にヤラレますね。シビれました。くぅーッ。 冒頭、唐突に始まる感じも、個人的にはすごくスキです。 カッシーニの空隙さんの秋＝熟れる頃というの、いいですね。 ボクも実がしっかりと熟した秋を迎えたい、と思いました。 あ、でも、ずぅっと春爛漫でいたい気もするなー（遠望）。
パンリコ 8/22 18:12	なかなか渋い題です。やっと解かりました。 五行説はお好きですか？ 一生懸命考えている様子が目に浮かびます。 春はいつでも来ます。秋にでも冬にでも、自分が春だ！と思った時に。
柚子(ゆうこ　です) 8/23 0:53	「ところで。春は～」の「。」が非常に気になっています。 「。」と「春」の間は息ができない程の絶望？（季節は戻れません）？又は深い溜息なのでしょうか

floccinaucinihilipilification 8/24 12:36	春を恋愛に当てたのは面白いと思いましたが、前半で春を0～20歳にしてしまっているので変に思いました。 最後の2文をなしに、一生を四季に例える考察を続けても良かったと思います。
imt14 8/24 20:50	＞せいぜい、人に見られても恥ずかしくないよう身体を鍛え、腐らないようにしよう。 ここが引っかかった。なぜ、腐っちゃダメなんですか？ 「〇〇しないように××する」は、若者のやることではないと思う。 特に、自分の不安定さ、不確かさを「自覚」した若者にとっては。
kk21 8/25 0:51	最後の二行が言いたかったんですよね、わかります。
弟子 8/25 6:44	私は落としました。
halcyon 8/25 19:44	どうにか朱を絡めたら、もっとタイトルとのリンクがはっきりするかも。
茶目 8/25 23:57	ついこの間まで受験生だったので、春ってサクラサク、とか思ってしまいました。

ＴＯＰへ

輝ける季節

合計ポイント：12 Point
作者：やまのかめさん
作者コメントを読む

　光の季節。降り注ぐ光が人の心までも躍らせる季節。カーテンのわずかな隙間からですら、そんな強い輝きがうかがえる。
　もっとも強すぎる光は重くもあるのだ。部屋の外からはもうがたがた音が聞こえているが、毎日はりきりすぎても疲れっちまう。もう一眠りしよ。朝くらいゆっくり……

　がちゃっ。ばたばた。そしてさっと開け放たれるカーテン。強烈な陽光が閉じた目をさえ射抜く。
「おにいちゃん！」
　香奈の声が耳を叩く。目を開けば夏セーラーの胸元に朝日が射して、素肌がきらきら透き通るよう。そこから胸へはまっすぐ流れてぺったんこ。
　もう中学に入ったんだからもう少しこう、
「ほらもう朝だよー。夏休みだからっていつまでもごろごろしてないでよね」
　香奈の声が思考を遮った。香奈はさっさと窓まで開けてしまう。外の空気がむわっと入ってくる。ぬぉ、バタリ。これじゃ目を覚ます気にもなれんって。
「なぁ、一日中クーラーかけっぱなしの方が省エネなんじゃね？」
「空気入れ替えなきゃ気持ち悪いでしょ？」
　身をひるがえせば短めのスカートがひらり。ベッドからだと目線は腰の高さなんですけど。すっきりまっすぐなふとももが夏の陽光にきらめいて、その上にはスカートの裾が舞い降りてきて、いやそんだけ。
　もう中学に入ったんだからもう少しこう、まあいいか。
「毎日だらだらしてー、そんなんだから彼女できないんだよー」
　むぅ、うるさい。とりあえず身を起こして伸びを一つ。今日も快晴。夜は花火見に行く予定だし、いい天気なのはよかった。窓の外では木立の緑が太陽に照り返って鮮やかに映える。日射しは香奈の背中にも注いで、ショートヘアの下でうなじが白く際だつ。きれいだ。
「あたし、部活行っちゃうからね。お昼は適当に済ませてね」
と、香奈はぱたぱた自分の部屋へ。
　んーっと伸びをしてベッドから起きる。どっかから子供の声が聞こえてくる。こんないい天気だし、遊びたい気持ちもわかるけどね、元気なこった、この暑いのに。今日の予定は夜だけだし、こんな日は夕方から動くのが吉。
　とは言え朝からこの熱気。湿気もたまらん。寝直す気にもなれないし、さてどうしよう。ま、腹減ってるし、とりあえず起きるか。
　あれ、そういえば母さんもう出掛けたのか？　メシは？

「朝メシはー？」
　かちゃりとドアを開けて香奈の部屋を覗く。ばさっ。ん、今一瞬おへそ見えなかった？
「ちょっ、いきなり入ってくんのは反則！」
　慌てる香奈はかわいい。なにしてたんだろ。
「メシ……」

「ごはんは冷蔵庫の中！」
　もう、と香奈。さっとカラーを整え直す。
　うん、やっぱセーラー服がいいよな。俺も制服セーラーの高校選ぶんだった……
　香奈はスポーツバッグを持ち上げて、
「お母さんから買い出し頼まれてるけど、おにいちゃん、夜なに食べたい？」
と口をとがらせながら首をかしげてくる。
「夜いらね。花火大会行ってくる」
「花火大会なんて、誰と行くのよ」
「小林さんとだよ。お前知ってんだろ？」
「嘘……あの人彼女だったの！？」
　香奈はぼーぜんとこちらを見る。
　どうだ見たか妹よ。……ほんとは小林さんと森さんと男５人なんだがね。まあ許せ妹よ。
「おー、部活遅れるぞー」
「あっ、ほんとだ、もう行かなきゃ……」
　ばたばた飛び出していく香奈。ちょっといい気分になったので玄関まで見送ってやる。
　白いセーラー服は夏の日射しによく似合う。いい。閉まるドアの向こうでは相変わらず光が躍って眩しい。俺も早めに出掛けてもいいかもな。
　んーっと大きくまた一つ伸び。とりあえずメシ食うか。

作品印刷　　コメント印刷
作品に対するコメントを下さい。
コメント登録

投稿者	コメント
石花 8/18 20:43	ぺったんこー！作者さんナイスです
evolv 8/18 23:16	これは爆発してますね。画面の前で唖然としました。でもお兄ちゃんのつっこみが好きです。中学生・・・高校生くらいにはきっとお兄ちゃんの希望通りに！
laket 8/19 1:39	読み終わって、タイトルを見て笑ってしまいました。なるほど。 さわやかな気分になれてよかったです。
パンリコ 8/19 17:16	題と文章がぴったり合って安心して読めました。妹が中１という設定もぴったんこー！来年はこうはいきませんものね。
バケネコ 8/20 21:31	まっすぐ流れてぺったんこ、とか…まったくどうやったらそんな文を思いつくんですか。 べ、別にすごいなんておもってないんだからねっ！
BELIAL 8/21 16:17	そんな妹居るわけないのに…と思ってしまったり。
EtOH 8/22 15:1	僕もお兄ちゃんのつっこみが好きです。 読んでいて少しハラハラしてました。え？この作品大丈夫だよね？？この先なんもないよね？？って気持ちで・・・。 「夏」からここまでこれたのがすごい・・・＾＾
ふんざ 8/24 15:35	読みやすかったです。でももう少しこう、まあいいか。
floccinaucinihilipilification 8/24 16:8	高校生参加者がいるのが残念、とも思いましたが、その制約の中でここまで書いたのは流石の筆力です。 誘惑に期待です。
s.o.u.p. 8/24 18:49	作者さん。 妹さん、いませんよね？架空ですよね？

imt14 8/24 21:0	「夏」と「妹」の組み合わせがこんなにも僕の心を刺激するとは思ってもいませんでした。 新たなステージに到達させてくれた作者に感謝の気持ちでいっぱいです。
bfs 8/24 22:13	一個くらいこういうのがないとね。すばらしい。 > floc（略 高校生の方がいると何がどう残念なのか詳しく説明していただきましょうか。
弟子 8/25 6:37	おにいちゃんかわいいよおにいちゃん
floccinaucinihilipilification 8/25 15:32	＞bfsさん おっとっと。口が滑りましたね。 気分を害されたのであれば謝ります。申し訳ありません。 深い意味はございません。ただ、講義版での愛の回レベルの描写が好きなもので・・・。
bfs 8/25 17:58	> floc（略 さん いやいやそんなマジな意味じゃなくて、ただ一体ナニを期待したのかを事細かに述べてもらえればと思っただけですよ。 それを実妹モノに求めるのは流石っすね、と言っておきます。
葉月 8/25 23:1	なんと言う良い意味のベタベタ！　この系統としては申し分なしですな。
SOta 8/25 23:10	兄妹のやり取りのテンポがよく、すらすらと読めました。 ラノベの読みすぎです。完成度高すぎ。
八剣 8/27 22:42	リクエストをいただいたので忌憚のないところで。 やまなし、おちなし。 意味は・・・あるのでしょう。
やまのかめさん 8/29 9:9	みなさんこんにちは。お題「夏」に作品「輝ける季節」を投稿させて頂きました、やまのかめさんです。 夏休みの、倦怠感と高揚感の入り交じったような朝の感覚を表現できればなぁ、と書いてみた文章になります。え、妹ですか？ やだなぁ、主役はおにいちゃんですよおにいちゃん。あはは…… まぁ、その、そういう感覚と言いますか雰囲気を表現しようと書いてみた文章で(べ、別に妹が書きたかったわけじゃないんだからねっ！)、ほんとにそれだけといいますか、まさに、やまなし、おちなし。もっとも情景や空気をとてもうまく描きつつ起伏をつけて最後もきっちり締めている作品もあるわけで、まだまだ精進しないといけませんね。がんばります。 思っていたよりも好評を頂いてしまったのですが、コンテスト全体を眺めてみますと、こういう軽めの、楽しい夏の一コマ、といった方向の作品が意外と少なかったように思えまして、そのせいで目立てて特をしているかなぁと思っています。 「ぺったんこ」とかそんなにユニークな表現でしたでしょうか。自分としてはそういう、ユニークとか独創性という意味ではあまり光る部分がない文章ではないかと思っていたので、ちょっと驚いてしまいました(べ、別に見慣れてるわけじゃないんだからねっ！)。なにはともあれ楽しんで頂けたのでしたらなによりでした。 それでは、作品を読んで下さいました皆さん、コメント下さいました皆さん、どうもありがとうございました。

ＴＯＰへ

夏

46の熱い夏。
さあ、恒例まじょコメントまいりますっ。
何が恒例って、このあいらんど版まじょコメントは、一作品ずつ付けていた講義版と異なり、全体を体系化して、そのまとまりごとに作品同士を関連づけたり比較したりしつつ46作品による宇宙を形づくってゆこうという、成功するかどうかは分からないけれど遠大な志を有するところが、公然にしてひそかな自慢なのです。
そのことで、あなたの、あるいはお気に入りのあの作品に、別な光があたれば、もっけの幸い。お急ぎのかたは、検索機能でつまみ食いをどうぞ。
では、はじまりはじまり♪

全46作品の宇宙、４つの島に分けます。

パート１ 夏だ怪談だ！

パート２ 夏だ恋だ!!

パート３ 夏が来れば思い出す♪

パート４ ノンジャンル

パート１ 夏だ怪談だ！

10作品のこわーいこわーい島です。

鬼譚
まずは古典的に百物語から参りましょう。
するりと入って後半で盛り上げて。いいバランスの仕上がりですね。
―――ごぶり
何より、この音が恐いです。
そして、この音が９回しか聞こえてこないのも恐いです。１０人いたはずなのに、ひとり残ってるんだ。それはきっと「あいつ」……

一服の清涼剤
こちらも百物語でした。数、合わないよね、という考えオチで、だんだんに、というよりはラストで一挙にゾゾっと来る趣向。
それにしても、部長さん、オヌシ、なにもの？

怪談かもね
かもね、と名乗ってるので怪談の仲間に入れときます。祟らないでね。ついでにタイトルはもっと昔話風のほうがよいのでは？
炉端よろしくゆっくりと語り始め、山道でにわかに加速してギャグ炸裂、さいごにすとんとお侍さんの体が置き去りに。メリハリが効いていて、ここちよく読ませます。
ただ、時代設定が室町時代なのでねぇ。レインコートや玉ねぎは、ギャグとは言え、おさまりが悪いので

は。

冬虫夏草（トウチュウカソウ）
　その点、こちらのシブい語り口は堂に入ってました。
　蝉なら物珍しいだけで、蛙になるとちょっと気持ち悪くなって、兔に鹿に、そしてニンゲンン、ぎょえええ。
　取り憑く動物の大きさと恐怖の大きさをシンクロさせた構成が功を奏して、ラストシーン、書き込んでないだけにより粟立ち感をそそります。
　南無阿弥陀仏、藤助さん。ただねぇ、手が見えてから胴体掘り出すまでに「一刻」＝２時間もかかるかしらん、村の衆。

　恐い恐い。供養も済ませたし、早く次、行こ。

もうイヤ
　別にキノコなんか生やしてなくたって、単体でこれだけ恐いのです。
　コラムランドの風物詩といってよいGネタですね。
　カサッカサッと音で迫る夜の恐さを、朝日のもとでの目に見えるおぞましさへと転じたラストが……うぅ、想像したくない。南無阿弥陀仏、黒光りさん。

　おうちのなかの恐怖をもう一つ。

果たしてぼくに夏は来るのだろうか
　埋められた（と思いこんでしまったらしい？）狂気。
　設定は、おもしろいと思うのですが、エスカレーターなの？　エレベーターなの？　などなど、作者さんの頭の中だけで設定が完了してしまって、それが表現しきれてない感。
　新聞記者だの絶対悪だのという、どうでもいい（ですよね？）前置きは吹っ飛ばして、ワケもなくいきなり埋められた恐怖！　のような持って行き方のほうが、より恐さが鮮烈で、日常性と非日常性の対比も際立って良かったのでは。

　外へ出ましょう。ほら、お日さまの光を浴びれば、何にも恐くない。

焼け付くような日差しの中で見た
　と思いきや、陽光のもとだからこそ、いっそう眩しくそそりたつ、おぞましさ。
　「ケヒャ」からくいっと引き込まれて、細密な描写を、敢えて読みにくいレイアウトだからこそ反芻しつつ読んでしまって……おのれ策士め。
　ただ、最初の言い訳前置きはよけいかな。「あれは、忘れもしない小学6年生の夏。」と入って良かったのでは？特にこれだけ作品が多いと、早く核心を見せてよ、という気分で読者は多読するので。
　それと、だいじなシメのフレーズ「あの少女の顔をいまだにはっきりと鮮明に覚えている」。「はっきりと」と「鮮明に」は、どう違うんでしょ？　――というあたり、おしゃべり癖がちょっと過ぎるように読みました。

　子供のひとり遊びは恐いんだよ、をもう一つ。

夏が壊れていく
　　「もしかしたら
　　いなくなったのは自分なのかもしれない」
　句読点なしに挟まれたこの２行が、夏の濃い影のように不安の正体を黒々とかたどって鮮やかです。かくれんぼのおいてけぼり感という分かりやすい情況から出発して、ここで実存そのものの不安へと、するり肉薄。
　議論の出ていたさいごの終わり方「顔を上げたんだ」は、「つづくよ」という気分の表現と読みました。終わったんじゃない。安心したんじゃない。ほんとうにこわいことは顔を上げたその先に待っていたんだよ、と。

　子供じゃなくても、ひとりは恐いよ。

音のない世界

蝉の音が止んで、静寂の恐さへとつなぐ際に、車に轢かれかけるという「動き」を入れたところがストーリーに変化が出て良かったかな。
このパニック状態で、携帯電話に救いを求めてしまうところ、それだけケータイが体の一部になってしまってるという時代性、でしょうかねぇ。生身の異常を機械に確認してもらう、という逆立ち関係。現代医療のかかえる問題にも通ずる……なんてね。

さいごは、ちょっとヘンなホラーです。

真夏にはビールとビキニ、それから少しだけの拳銃を
海です、ビキニです、でも拳銃です。
黒服の男登場のミスマッチ設定がうまいなあ。命の値段が50万円。コントのようなやりとりも笑わせてくれます。
うん、きっと犯人は奥さんなんだぜ、世の中そういうものさ、と勝手に納得。

パート２ 夏だ恋だ!!

こわい島を抜けたら、恋の島でぞんぶんにお楽しみを。こちらも10作品エントリー。

輝ける季節
えー、いきなりコレ？　そうコレです。
定番通りの妹萌え、なのですが、侮るなかれ「まっすぐ流れてぺったんこ」。ユニーク表現炸裂で、ニヤニヤ楽しみながら書いている作者さんのいたずら顔が浮かんできそう。

中学生はほっといて、ういういしい恋の始まりです。

熱帯夜
夏だ恋だ熱帯夜だ、と勢いで突入してみたものの、「なるほどそういうことか」で一気に冷え込みました。これじゃ恋じゃないなあ。
核心部分の「ハモンドオルガンの音色のような色鮮やかな感触」という表現もよく考えると意味不明。感触を「色鮮やか」と視覚でたとえるだけならまだしも、それをさらに「音」にたとえるとは？？
恋、してください。二次元でも三次元でも。その「実体験」をもとに、るんるんなラブコメをぜひ。

いきなり飛んでオーストラリア？

サザン・クリスマス
真夏にクリスマスを持ってきた落差、そこに文化落差を重ね合わせて、それをこれからゆっくりふたりで埋めてゆく予感。お互いにはにかみながらの、ういういしい恋の始まりを演出していただきました。
まとまりは良いのですけれど、もっと読み手を引き込むには、はっきりStevenサイドに立って、「有希は……顔なんてとてもじゃないが見られなかったのだ。」というような有希サイドの心情描写は、Stevenサイドから見た、はらはらどきどきに置き換えたほうが、読者も一緒に恋ができて、より臨場感が高まるのでは。
「砂浜には若者二人が潮風を浴びながら肩を並べていた。」というカミサマ視点も、「ボクのとなりに有希がいる」とStevenサイドにカメラを置いたほうが、しっくり来そう。

古典的な花火道中。

限られたモノ
こちらは、はっきりボク視点でしたね。まさに現在進行形のときめき感が、シンプルな描写からすっきり立ち上がってきました。
工夫のしどころはタイトルでしょうか。モノって、あまりにも即物的で色気がないというか、ぺったんこというか。もう少しこう(以下略)

夜空を見上げたついでに、恋のキューピッドさんにご挨拶。

〜チャラ☆のひと夏の想い出〜
ふむふむ、温暖化の元凶はコイツかい、という設定で、ノリよくチャラーンとまとめていただきました。

　雲の助くん、風子ちゃんと賑やかに遊んでいただいたのですが、ひとりトークで語るとどうしても説明っぽくなってしまって単調。そのあたりにドラマ性をどう持たせるかが課題でしょうか。

僕の夏休み～夏の終わり編～
　突飛設定なら負けません。
　国名としての「夏」に来るとはっ！　それを夏休み日記仕立てで語るとはっ！！
　ナイスナイス。お題の飛躍のさせかたでは、46作品中随一でしたね。ただ「彼女は僕に抱きついてきた。彼女の涙で僕の肩が濡れ始めてきた。」と、ラブシーンがいかにもぎこちないのは、経験不足だとしかたないかな。そちらの方面でも研鑽を積みつつ、いい時代にしてくださいませ、湯王さま。

　いや、恋なんてあっしにはかかわりのねぇこって、とちょいと横向いた作品を２つほど。

青春、朱夏、白秋、玄冬
　自分自身を励ます気持ちと、ラストのちょっとした自己ツッコミ、バランスよく仕上がっています。
　心の中はいつも曇天――
　だいじょうぶ、これからもくもく入道雲が広がります。
　春はいつ来るんだろう？――
　だいじょうぶ、ひまわりは夏に咲きます。

「日本の夏」で、初めて私は「女」になった
　アラスカ視点でニッポンを見てみると？
　その突飛さのおかげで、日本女性はプールで女になる、というなかなかに無茶な極論がリアリティを獲得しています。
　その冒険的な展開は良かったのですが、ただ、着地のひとこと「もちろん皮肉です。 」でぶち壊しになっちゃったかなあ。いわゆる「上から目線」を感じてしまいます。いいじゃないの、当人たちがしあわせならば。こんなふうに決めつけてしまっては、狭隘なジェンダー主義者さんとスタンスが同じになってしまうのでは？

　恋の部、ラストは花火で賑やかに打ち上げましょうか。

あの夏の花火
　ぬぬ。このおんなごころの描きようとディテールのたしかさ。もしや実体験でしょうか。
　実体験を言葉にするときの注意点は、本人が分かりすぎているだけに客観視しにくくて、どうしても説明不足、言葉足らずになってしまうこと。特に、選択に揺れる微妙なおんなごころがテーマなので、なおさら。いきなり「直感」と言われても、読者置いてきぼりです。
　いったん記憶を消去して、まっさらな段階でこの話を聴いた場合、自分自身が理解できるかなあと確かめながら再構成すると、もっと伝わる力が備わると思います。

ニシキカムロ
　逝ってしまった人との約束。泣かせますね。しかも爽やかに泣かせるところが、この作者さんの大力量。
　金魚すくいにかがみこむことで子を導く父の思いを見せて、花火を見上げることで空から見守る母の思いを描いて、ラストはロウソクの火を風から守って。
　うん、精緻にはりめぐらされた美しい構成です。
　なんだか、すべての事物に暗喩がこめられた絵画を見てるみたい。そこが難点と言えば難点ですかね。ひねくれ読者は、どうにも作者さんの計算通りに踊らされている気がしてきてしまうのです。
　だいじょうぶ、非ひねくれ＝純情読者さんたちは、しっかり感動してくださったので。
　さすがに熟成ワインにはかなわなかったけれど、若さの勢いで銀メダル、おめでとう!!

パート３ 夏が来れば思い出す♪

　夏だから思い出もたくさん。12作品の島です。

　日常のなかに、小さなきっかけでひょいと戻ってくる思い出のカケラたち。
　まずは、まだ街が眠っている朝まだきから。

――――― AM 04：58
冒頭の入りにくさが難か。「夏の本質は……」が、ひどくリクツっぽい思考に見えてしまいました。そのあと語り手さんが動き出してからは、すっと寄り添えるのですけれど。（「結論として、ブランコは動いた。」もリクツっぽいのでは。要らないですよね、「結論として」）
あとラスト、「そう思った」を削ると、もっと余韻がふくらみそう。
その頭とシッポだけが引っ掛かったのですが、公園から祖母の駄菓子屋へと追憶がめぐってゆくくだりの情緒はしっかり受けとりました。

そして太陽が照らし出す昼下がり。

線香
ふわっと立ちのぼる香りが、つかのま過去を連れてくる。細密画のような、一つ一つの事物を丹念に描きとめる手法のおかげで、その淡い「つかのま」をありありと読者も共有できます。
何もドラマは起こらない、でも、読み終えてしっかりある感懐を置いていってくれる。議論のあったレイアウトも、この作品についてだけ言えば、このツメコミ加減で作者さんの意図通りなのかな、と読みました。

電車に乗ってみます。

探し物
南へ！　つきあげる衝動。
その衝動のままに旅へ。ぐいぐい進むかと思いきや、一転、車内で過去をフラッシュバック。
これだけ体言止めでぽんぽん放り込んでくると、ふつうは読み手の想起が追いつかなくて破綻してしまうのですが、そこは個々の事物のユニークさでしっかり引きずっていってくれます。これだけ並べても騒がしくならないので、「記憶というものは、何故こんなにも静謐なのだろう」という洞察がすっとはまります。
このままJRの車内広告でも行けそうな……

車に乗ってみます。

白浜@南伊豆
おつかれさまの実体験？
暑い季節だから、さらりとまとめた清涼感が吉ですが、読者の想像力にゆだね過ぎか。
その、ゆだね過ぎをうまくとらえて「リア充じゃん」とさらり返したコメント陣、やるのぉ、と見ていたのですが、バックグラウンドが少し違うだけで「分かります」会話も噛み合わないのですね。なるほどなあ、とコメント戦を見てました。

白浜から沖縄へ。個人の、ではなく、国全体の記憶。

18の娘
ラストのお父さんの「くしゃっとした顔」をどう読むか。コメント陣も分かれましたね。
無力感や悲しみともとれるし、これはこれで平和でいいじゃない、とほころんだ顔とも読めるし。
読者の裁量に任されたのかな。根幹となるメッセージをここまで任せるのは、ちょっと投げ過ぎか。もう一フレーズ、方向性をしぼりこみたかったところですが、それが議論の喚起力につながって４位に食い込みました。おめでとう！

夜になりました。

夏の記憶
なつかしさは、人を包み込むやさしさ、あたたかさ。
お祭りという「なつかしさ指数100％」の古典的舞台で演じられた、ささやかな偶然を描くことで、人から人へと受け渡されてゆく思い出の連鎖を感じさせて、ほのぼのの仕上がりでした。
ただ、あまりにほのぼの〜過ぎて、人物がまるで影絵のよう。個性が感じられないのが、物足りないところ。

より自分自身に即した語りで。

なつ　夏　ナツ　　おまけで　Natu
　幼い頃の楽しさ、中学・高校のだるさを経て、また夏が別のワクワクを獲得するまで。
　共感しやすい率直な語りでしたけれど、どのシーンも駆け足で感興がふくらみきらなかったのが残念です。
　ときにタイトルの含意はなんでしょうね。幼い「なつ」、勉強の「夏」と順に当てはめてゆくのでしょうか。

　やっぱり田舎。おじいちゃん・おばあちゃん家。これ夏の定番ですよね。２作品。

「lost」失ったものの辿る道。
　山の中で出会った不思議な少年。
　会いたい。でも、もう会えない。
　花火に星明かりと、なかなかいい構成なのですけれど、前半の説明文はもう少しシンプルにしたい。
　あと、プチ遭難から助けてくれた恩人さん。「その子」じゃなくて、名前くらいは残しておきたいかな。

夏の日
「私」視点で通してほしかった、というのは、たぶん単なる修正ミスなのでしょう。
　同じように、あれもこれも、といくつものエピソードを入れすぎて、まとまりを欠いてしまったのかな、と。
　おばあちゃんの人柄がメインなら、溺れかけたシーンが要らないし、せっかくの定番＝近所のお兄さんも、こんなチョイ役出演じゃ不満でしょうし。
　ぴったんこの1500字なんですよね、この作品。削りに削りに削りに削った苦労の果て、と読みました。
　メインをしぼって、あとは潔く捨てる勇気をぜひ。

　蝉の声で記憶が蘇るヴァージョンをもう一つ。

夏と夢と後悔と
　高校時代の友達、等身大で語れる気持ち。
　医者になってのドラマと挫折、想像で作り出す気持ち。
　その落差が際立ってしまって、特に後半はあらすじを語るのに手いっぱいになってしまった感。大きなストーリーに挑んだ志は良いのですが。
　親を執刀するって、どんな思いだろう。たとえば、その一点だけにしぼってドラマを再構成してみると良いのでは。

　別段、お出かけしなくても記憶は蘇ってくるわけで。さいごは、おうち派を二つ。

I wanna...
　窓を開けてお祭りの賑わいに気づいた書斎派さん。
　現在形から過去形へ。そこのつなぎに、ちょっととまどいました。臨場感を出したくて現在形でまとめたのでしょうけれど、幼い頃を思い出して、もう一度、おみこし担ぐ列に並んだよ、と最後から最初に戻るように読むのかとも考えてしまいました。時制は読者さんにとっての、たいせつな手がかりなので、より意識して。
　あと日本語の言い回し。「朝食もそこそこに」かな、ふつうは。「一心不乱に並ぶ」もちょっとヘン。おみこしの日本情緒に英語タイトルも、やっぱりちぐはぐ。
　そのあたり、書き慣れてくると、もっと情緒が醸し出せると思います。

背筋の凍る思い
　窓を外から叩かれた書斎派さん。
　あやうく「怪談」パートに放り込むところでしたよ。
　こうやって思いを形にすることで、供養になるとよいですね。
　ミスリードっぽいタイトルや、ゴチック・斜体を入れる手法が、なかみとはそぐわない感があったのですが、どうでしょう。

パート４ ノンジャンル

怪談島にも恋の島にも思い出島にも入らなかったノンジャンル14作品。
個性派揃いの各島のなかでも、とりわけクセモノがつどいます。いろんな夏をお楽しみください。

まずはファンタジックな３作品。

夏
氷売りのおじさん、幼いきょうだいたち。
まあるい氷のガランカラン。
聴覚だけで表現した技が秀逸で、涼しさをガランカランと運んでいただきました。
いいなあ。。。

登る少年
こちらは高みへ高みへと、ぐいぐい登る少年。
登るからこそ、神の怒りに触れてしまうのでしょう。
少年の一途さが怒りという激情となってほとばしって、それが神の意思とスパークして。
「メロスは激怒した」。だから走る。「ノボルは激怒した」。だから登る。
ただ、なまじ寓話めいているだけに、ノボル君の死に作者さんがどんなメッセージを託したのか、努力なんてムダなこと？　というわけでもなさそうで、そこが気になります。

雲の向こうは
雲に覆われた世界、援助でしか生きてゆけない国。現実世界のアナロジーとしてのメッセージ性もゆたかな力作でした。
ただ、空行を使いすぎかな。さらっと読めそうで、これでもかこれでもかとスクロールしても終わらないのは、かえって読者さんにストレスになってしまうので。
それと、せっかくのＳＦテイストを活かすためには、「御飯だよ」とか「観光バス」とか、あまりに日常的なものは、ちょっと言い換えてあげたい。それともこいつ、猫バスみたいに空飛ぶのかな。

そして日常へ。

さあ、夏休みが始まる！

7月20日の朝
わくわく迎える夏休みだってのに、空白がどうとか、妙な説教する担任。
それを「うざい」と片付けるのでなく、「めんどくさい」にしたところに、基本うっとうしいなと忌避しつつ、ほんの少しの親しみを持っている距離感を感じました。
コメント陣も、「いいな」「ウゼー」に分かれましたね。そのこと自体が、この作品の成功をあらわしているのでは。

(気を取り直して、もう一度）さあ、夏休みが始まる！

風物詩
アツイねぇー、を合いの手にぽんぽんぽんと三つの光景を放り込んで、わくわく感をふくらませつつ、「俺の部屋」で落とす。
うまいうまい。「風物詩」というタイトルに期待した情緒をさっくり裏切っていただきました。コノヤロー（←ほめことば）。

リズム物をもう一つ、行きましょう。

大嫌いな夏
前半、ぐいぐいぐいと視覚的に盛り上げて、盛り上がりきったところで転調した後半、これはこれで狙った着地なのかもしれませんが、やはり失速気味の印象。
書いているうちに、はじめの勢いとは気分が違ってきたということなら、そこからもう一度、全体を整え直したい。

暑さに灼かれつつ、いろんなことを考えます。身辺エッセイを三つ。

ミーン　ミーン　ミーン
　今回、効果音係を一手に引き受けた感のある蝉くん、ここでようやくその生態を真正面から問うてもらえました。
　思考のプロセスが、まるごとさらけ出されているので共感度大。「人間様の特権だ、もう少し自由にやらせてもらうよ」のひとことに大きくうなずけます。
ときに、陰→影、でしょう。

一昔前のマンガ月刊少年誌の10月号あたりをみると感じるアレ
　雑誌の号数と実際の発売日のズレが生じさせる「季節を先取りしたつもりがズレちゃう感」を北海道という場所から眺めて、さらにそのズレを増幅させて遊んでいただきました。
　着眼点はユニークだったけど、夏か？

イライラの夏
　「件の件の時」　くだんのけんのとき？
　「口を荒げる」　声を？　口調を？？
　と文章が、それこそ荒いあたり、怒りのおさまらないうちに勢いで書ききったのかなと読みました。
　夏コミですか、おだいじに。

　軽くコントをはさみます。

避暑地での過ごし方
　避暑地！　目を輝かせて付いてゆくと、スーパー。
　なんてことないアイディアを、しっかりおもしろがらせてしまうトークの技が光りました。

　嗚呼、夏が行ってしまう。

The Autumn Song
　「太陽は毎朝、重役出勤で、まったくやる気がない。」という表現が、ふぃっと心にはまりました。
　行く夏を惜しみつつ。これはこれで、しっかり夏をとらえているかと思いますが、レナと同じで、やっぱり空行を多用しすぎの感。

　いよいよ最終。ストーリー物の力作を二編。

２杯目の歓び
　コラム歴、たぶん最古参の作者さんから。
　情景描写の緻密さと言い、蘊蓄をくどくなく読ませる技と言い、そしてラストにしっかり立ってくる前向きな決意と言い、さすが熟練のワイン「生産者」の味わい。堪能させていただきました。
　初漂流の初金メダル、おめでとう!!

冷たい甲子園
　甲子園。一回負けたら、それでおしまい。リーグ戦も敗者復活もない。
　その潔さと、ふたりが対峙して、全力で信念をぶつけあう潔さとがシンクロして迫力ある一幕となりました。だから「冷たい甲子園」なのでしょう。
　辞退するべきか否か、作者さんの軍配はそのどちらにもなくて、「目の前にいる男は憎むべき敵では無く、倒すべき相手なのだ」と悟り、正義不在のままにそれでも死力を尽くして闘い続ける。
　これが、小説スタイルで本作が提供された理由なのかな、と読みました。「18の娘」と同じく議論喚起力大で５位です、おめでとう！

　ラストはどうしてもこれ。

音感に関する三つの実験
　いや、びっくり。意味をなす言葉は、ひとつとしてないのに、ひらがなの文字列だけで、こんなにもゆたかな表現世界が開けてしまうのですね。
　特に波のすばらしさといったら！

ブロンズ・メダルです、おめでとう!!